

第 1 回 館山市議会定例会会議録
(第 5 号)

1 昭和63年3月11日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 脇田 安保
3 番 田沢 勝信
5 番 岩村 勝弘
7 番 生稲 隆
9 番 山口 康雄
11 番 神田 守隆
13 番 山中金治郎
15 番 横溝 功
17 番 石井 謀
19 番 川名 正二
21 番 辻田 実
23 番 流山源次郎
26 番 近藤 好雄
28 番 飯田 義男

2 番 永井 龍平
4 番 庄司二三男
6 番 山崎 雅己
8 番 鈴木 勝美
10 番 鈴木 忠夫
12 番 榎本 春光
14 番 小宮 利夫
16 番 石井 昌治
18 番 日下 君敏
20 番 福原 勤
22 番 黒川 平治
25 番 渡辺 昭夫
27 番 林 豊

1 欠席議員 1名

24 番 松下 正己

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 飯野 芳郎
経済部長 安西 良一
教育委員会 山田 教和
委員長 会長

1 出席事務局職員

事務局長 庄司 利光
書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

助役 小倉 澄男
市長公室長 錦織 茂
民生部長 渡辺 弘
水道課長補佐 山中 通夫
教育委員会 福原 修
教育委員 会長

事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 土橋 康彦

1 議事日程(第5号)

昭和63年3月11日午前10時開議

日程第 1

- 議案第 1 号 昭和 6 3 年度館山市一般会計予算
- 議案第 2 号 昭和 6 3 年度館山市国民健康保険特別会計予算
- 議案第 3 号 昭和 6 3 年度館山市老人保健特別会計予算
- 議案第 4 号 昭和 6 3 年度館山市ユースホステル特別会計予算
- 議案第 5 号 昭和 6 3 年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
- 議案第 6 号 昭和 6 3 年度館山市水道事業特別会計予算
- 議案第 7 号 昭和 6 3 年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

開 議 午前 10 時 05 分

○議長（飯田義男君） 本日の出席議員数 27 名、これより第 1 回市議会定例会第 5 日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議長の報告

○議長（飯田義男君） この際、申し上げます。

昭和 6 3 年度予算説明資料の中で、一部印刷の誤りがあったので訂正されたいとの申し出がありました。お手元に配付の正誤表により御了承願います。

議案の上程

○議長（飯田義男君） 日程第 1、議案第 1 号乃至議案第 7 号昭和 6 3 年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1 番議員協田安保君。御登壇願います。

(1 番議員協田安保君登壇)

○ 1 番 (協田安保君) すでに通告してございます諸点について御質問申し上げます。

まず、歳入についてであります。私の質問は予算書事項別明細書に沿って行ってまいりたいと思います。

まず、初めに予算書 29 頁、9 款市民センター使用料について質問いたします。ここに 63 年度予想される使用料 1591 万 5000 円が計上されておりますが、この積算の根拠について説明を願います。

また、1 日の使用料の算出は午前の部、午後の部と夜間の部を加算した使用料になると思います。例えば、平日・ホールの移動席を使用したとすると次のようになります。午前 9 時から午後 4 時 45 分まで借りたとすると、午前 7500 円、午後 9800 円の合計になります。また、午前 9 時から夜間の 9 時まで借りたとすると、午前 7500 円、午後 9800 円、夜間 1 万 1700 円の合計 2 万 9000 円ということになります。しかし、私はこの午前プラス午後プラス夜間イコール 1 日料金では高いと思うのであります。丸一日借りた場合は割安にする別料金を設けた方がよいと考えています。

ここで、木更津市民会館のホール使用料を例にとりますと、丸一日借りた料金は全く別の料金体制となっております。また、他市もこれに準じております。こうした公共施設の使用は市民の文化の向上に大きく寄与するものでありますし、市民に大いに利用していただくというのがその趣旨でありますので、この 1 日使用料の別料金制度について市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、歳出です。102 頁、6 款 3 目 19 節負担金補助及び交付金で説明欄の上段にあります野菜集団産地育成事業補助金 455 万円について御質問いたします。説明書によりますと、「予冷施設を整備することにより野菜の安定的な生産出荷体制を確立し、生産物の安定価格維持を図る」とあります。この予冷库の規模として 49.5 m²で、県が 3 分の 1、市が 10 分の 1 です。ここで、質問に入りますが、どこの場所で、何棟の施設をつくられるのですか。また、どのような野菜を対象に使用

されるのでしょうか、御質問いたします。これらは市場競争が激しさを増すため、野菜の安定的な出荷体制を図るために、野菜産地育成事業として予冷库を導入する施策は大変に優れているものと私は考えております。このような施策をより進めてもらいたいというように考えられますので、御質問する次第です。お答えを願います。

次に、104頁、第6款5目15節工事請負費の中で農道整備工事請負費でございますが、ここで私が質問したいのは、どこの道路とどのような整備をなさるのか、説明を加えていただきたいと思います。

なお、農道の整備をする場合には、いろいろな条件があると思われます。整備に対する条件を説明していただきたいと思います。といいますのは、私が耳にしたことですが、これは減反政策推進とのからみがあるようでございます。減反が100%できた地域の農道に対してはこれを整備していく、しかし、減反の目標が達成できなかったところは、達成できなかったということで、農道の整備は見合わせるというような条件があるというようにお聞きしたのですが、この点少しははっきりしていただきたいと思います。どうでしょうか。

次に、130頁、9款3目15節工事請負費でございます。この事業費の説明の中でホース掛建設工事請負費と県消防操法大会出場夜間訓練用灯が入っておりますが、私が質問申し上げたいのは、このホース掛建設場所と照明灯はどこの場所に設置されるのでありましょうか、説明いただきたいと思います。

次に、最後ですが、138頁、10款教育費で、学校建設費の中に15節工事請負費で館野小学校プール建設工事請負費がございます。これはかねて通告質問で御要望申し上げました私の要望に関連いたしますので、館野小学校プール建設の建設場所、また付属棟あるいは井戸につきましまして少し概要の説明をしていただきたいと思います。

以上、御質問申し上げました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 脇田議員の御質問にお答えをいたします。

御質問の第1点は、教育使用料に関する問題でございますが、いずれ

も過去の実績にならって積算をいたしたものでございます。

なお、そのうち市民センターの使用料についてでございますが、1日使用の状況を分析いたしますと、展示販売、興行がほとんどでございますので、現在のところ1日使用の場合の特別な料金の設定は考えておりません。

質問の第2点、農業振興費の中の負担金補助及び交付金中、野菜集団産地育成事業補助金についての御質問でございますが、野菜の安定的な生産出荷体制の確立とともに、鮮度の保持、品質の向上を図ることにウェットを置き館山市農協が予冷施設を整備するものでございます。

設置場所は、産地の中心である農協館野支店の集荷所の中で、その規模はプレハブ型の49.5㎡でございます。また、扱い品目といたしましては、ナバナ、春菊、パセリ、インゲンを計画しております。

次に、農地費の中の工事請負費、農道整備工事請負費でございますが、農道整備の舗装工事につきましては、原則として将来市道になり得る交通量の多い路線を選定し、建設課、都市計画課、農水産課の3課で協議し、順位付けを行い、年次計画を樹立し、事業を実施しております。

今回、お願いしようとする場所は、62年度実施しております小原地区の延長で、川名に通ずる延長822m、幅員3mから4mの舗装工事でございます。

なお、減反が100%達成されなかった場合についての御質問でございますが、多少のペナルティはございます。

次に、9款消防施設費に関する御質問でございますが、ホース掛建設場所につきましては、那古地区の第2分団第4部及び九重地区の第9分団第27部の詰所脇の2カ所に建設しようとするものでございます。

照明灯仮設工事場所につきましては、第5分団第12部の千葉県消防操法大会出場の夜間訓練用に館山小学校校庭に設置しようとするものでございます。

質問の第5点につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

(教育長福原 修君登壇)

◎教育長(福原 修君) お答えいたします。

館野小学校のプールの建設問題でございますが、現在、考えておりま

す館野小学校プールは、屋内運動場いわゆる体育館でございますが、その南側に長さ25m、幅13m、6コースのプールと機械室及び更衣室の付属棟を予定しております。

また、プール用水は、専用の井戸を建設し、これに充てようとするものでございます。

以上でございます。

◎1番（脇田安保君）　ただいま市長の御答弁でおおむね了解いたしましたんですが、何点か細かい点をお聞きしたいと思います。

1点目の、市民センター使用料についてでありますけれども、興行等の開催が多いということではありますが、その中でやはり市民が使われる行事等もあると思います。その点をお含みの上、さらに何点か検討されたいいただきたいことをお願いいたします。

次に、予冷库の話ですけれども、非常に私も関心を持っておりまして、館野支店に設置されるということですので、少し規模をお聞きしたいと思います。今、お話でナバナ、春菊、パセリ等を対象に行うそうでありますけれども、49.5㎡というのは約15坪、3間掛ける5間だと思っておりますが、それで予冷库自体がそっくり建物を建てるのか、それとも建物の中に予冷库そのものを入れていくのか。

また、15坪の予冷库といいますと、例えば、温度を3度Cぐらいで保って、鮮度を保つ意味でつくられると思うんですけれども、鋸南町等ナバナが主生産ですけれども、その中で、15坪の広さですけれども、絶えず満杯ということはあり得ないわけです。時期的には半分ぐらいの場合もあるわけです。そうしますと、1箱当たりの――予冷库全体にっぱい入っている場合には経費というのは安くなりますけれども、半分あるいは3分の1の場合には予冷库を始動するための経費が倍にかかってくると思うんです。その点で、この予冷库15坪そのものが2つか3つに仕切れるものなのか、その点伺いたいと思います。

それから、農道整備についてですが、細かい御説明を聞きました。理解いたしましたが、近隣の富浦あるいは三芳、丸山町をよく私も通るんですが、町村では農道あるいは町道は100%近くに整備されているわけです。それとやはり館山市を比較しますと、現在は材料を支給されて労働

の奉仕で行われている。この点についてどのようなお考えがあるのか。
また、農家の方たちのどのような要望をとらえているのか、その点お聞きしたいと思います。

それから、ホース掛と照明灯の建設場所については、理解いたしました。

ホース掛のことですが、私のところに消防団幹部の方から、風の日にはホースが飛んで困る、まして今まで私も消防の関係やっておりましたんですけれども、実際に風の強い日にホースが飛んで、隣の家被害を与えたということもありました。あるときに団員から何かいいような方法はないものかと相談を受けたんですけれども、そのときに私も絶えず気にして通りを見て車で走っていたときに、和田町にいい例があったわけです。そのことを説明いたしましたら、ホースが飛ばない方法、中間ぐらいいに鉄の棒が付いているんですけれども、それを説明しましたら大変よいであろうというようなお話でありまして、ぜひ和田町で行っているそういうものを参考に何かいい方法はないものでしょうか。その点お伺いいたします。

◎経済部長（安西良一君）　ただいまの御質問でございますけれども、予冷库の規模ということでございますが、予冷库は縦が10 m、横が4.95 mのものでございまして、49.5平米でございます。なお、高さにつきましては、3.5 mでございます。

それから、この予冷库が建物の中に入るのか、それとも別個の建物かというような御質問でございましたが、館野支店に現在建っております建物、集荷所がございまして、その231平米の建物、その中にこの予冷库を入れて使用するというような形になるようでございます。

それから、温度の件でございまして、3度から4度に下げるということで予定されております。

なお、予冷库の中の仕切りができるのかというお話でございまして、これについてはできないということでございます。また、万一小さいというような場合には、1坪単位でも増設ができるというようなシステムになっているようでございます。

以上でございます。

◎民生部長（渡辺 弘君） ホース掛の件につきましてお答えを申し上げます。

ホースのふれ止め金具の取付けにつきましては、今後、団幹部と協議してみたいと考えております。

以上でございます。

◎経済部長（安西良一君） 農道整備の関係でございますけれども、市道に認定される要素のある農道につきましては、今後とも順次路線の整備をしていきたいというふうに考えております。

それから、もう1点は、市道に認定をされる要素のない道路といいたいでしょうか、農道といいたいでしょうか、これらにつきましては地元からの申請に基づきまして、小規模事業の改良事業として、補助対象事業としてやっていくというような方法と、それから農林業用の施設等の補修材料の交付をいたしまして、それによりまして農道整備を順次やっていくというような方向で考えております。

以上でございます。

◎1番（脇田安保君） 農道整備のことについては、大まか了解いたしました。

消防のことですけれども、説明書によりますと、今年度防火用水が5基建設を予定されている地域がありますけれども、どこの地区でありたいでしょうか。

また、防火水槽のことでちょっとお聞きしたいんですけれども、例えば、水量40㎡の防火水槽がございますが、消防ポンプ自動車と同時に2台で用水を使用した場合には、どのくらいまで使用できるのでしょうか。といいますのは、いろいろ私も今まで経験してきましたが、その点ちょっと認識を深めていきたいと思っております。

私も、防火については非常に強く関心を寄せているものです。62年火災概況によりますと、火災の原因別では、たばこは大幅に減少いたしました。台所や調理場でのコンロの火がてんぷらに引火するという事例がたくさん全国的に見られます。そこで、このケースによる火災などが見られますが、28年ぶりにコンロの火災がトップになりました。これもこの種の大火がありましたので、あえてお聞きしたいんですけれども。

ども、主婦に対して啓発あるいは予防対策はどのように行っておりますか、説明を加えていただきたいと思います。

プール建設の方でございますけれども、今までのプール建設の経緯をお聞きしましたところによりますと、夏を過ぎてから完成をみるようであります。私も通告質問で要望いたしました、昨年——プールでの授業が終わり、その場で解散というような館野小学校は変則的な授業を行っておるわけです。また、自宅に帰るとき途中で交通事故にあった、そのような事例がございますので、父兄の方たちもぜひ夏までにプールの使用ができるように強く望んでおるようです。ですから、ぜひとも夏に使用できるように、その点をひとつよろしくお願いいたします。

◎民生部長（渡辺 弘君） まず、第1点の防火水槽の建設場所でございますけれども、那古地区——これは中浜町内を予定しておりますけれども、それが有蓋1基、それから八幡、香、大網、それぞれ各有蓋を1基ずつ計画しております。腰越につきましては無蓋で1基の建設を予定しております。

それから、第2点目の、現在、防火水槽を設置しております基準の40立米の放水能力といいますか、時間でございまして、規格放水性能で1台につき40分以上ということになっておりますので、2台の場合には20分以上になるかと思えます。

3点目の、家庭の主婦を対象とした防火意識の啓発はどうしているのかという御質問でございますけれども、近年、全国的に見ましてもてんぷら油の処理等、不注意による火災の発生が新聞紙上等で見受けられます。特に、炊事に携わる家庭の主婦に対する防火意識の高揚が必要であることは論をまたないわけでございます。市といたしましては、春、秋の防火週間にはチラシ等を配布いたしますとともに、広報宣伝等によりまして防火に対する意識の高揚を図ってまいりましたし、また、地域防災訓練におきましても、消防署員による防火に対する心構え、また、実際に消火器等による消火実地訓練、そのほか随時、広報、回覧による啓発啓蒙等行っているところでございますけれども、今後とも啓発を行うべく検討を実施してまいります。

以上、答弁を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上、1番議員脇田安保君の質疑を終わります。
次、11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 昭和63年度の当初予算についてお尋ねをいたします。

私の質問は、事項別明細書によりまして、順次進めてまいります。なお、補足的にこの予算説明資料も使います。

まず、25頁、固定資産税についてであります。17億7219万4000円ということで新年度の現年課税分が計上されておりますが、一昨年来、半島振興法の地域指定を受けまして、それに基づいて固定資産税の減税措置がとられるようになっております。この点に関連をしてお尋ねをしようとするものであります。新年度予算ではこの減税対象は何件、幾らを見込んでおられますか。

この半島振興法に基づきます固定資産税の減税措置については、要件が大変——製造業であり、なおかつ大規模な機械の購入ということで、大企業の適用は受けられてもなかなか地元の地域振興に結びつかないのではないかと、こういう懸念をこれまでも指摘してきたわけですが、こうした点で、この減税措置が地元の地域振興を促す上でどのような役割を果たしてきておるのか、これまでの実績についてもお示しをいただきたいと思ひます。

次に、40頁、雑入の説明の中を細かくいきますと、予防接種の実費徴収金ということで381万3000円計上されております。この予防接種の事業は、もちろん本人自身を病気から守るというものであることはもちろんでありますけれども、現在、国民皆保険制度というもとでは病気の治療は多額の保険出費につながる要素を持っております。その意味で予防接種事業は社会的に大変重要な、必要な措置かと思ひます。しかしながら、予防接種にあたり実費徴収金を取るということは大変これに逆行するのではないかと思ひますが、この予防接種実費徴収の内容について御説明をいただきたいと思ひます。

また、なぜ全額公費負担をしないのか、あわせて御説明をいただきたいと思ひます。

次に、83頁、保育所費の中に賃金ということで、第7節で1080万3000円、かなりの高額の臨時職員賃金が計上されておるわけであります。内容を読みますと、産休に関する代替職員の賃金ということで136万3000円計上しておりますが、これは臨時的なものとして理解いたします。

しかし、これ以外に臨時職員賃金として936万円、これが計上されているわけであります。12月の議会におきましても、この保育所の臨時職員賃金ということで補正予算が提案され、そうした中で現に保育需要が大きくなっているのではないかとすれば臨時職員ということではなくして本当に住民のためになる、内容のある保育を実現していくには職員の身分について安定を図る、正規職員として雇用するのが本来の筋ではないかと指摘をしてきたところでありますが、この臨時職員については一過性の特定の保育需要にこたえる、こういうものであるのかどうか。そうでないとすれば、この際、正規職員をふやすのが必要かと思いますが、この点についてどうお考えであるのかお聞かせをいただきたいと思うのであります。

次に、91頁、衛生費・環境衛生費ということで、工事請負費の中で1億299万6000円計上されております。生活排水処理施設のための工事費ということでありますが、この処理施設——館山湾の浄化対策として三軒町排水路に設置するということがこの予算説明資料の中から読みとれるわけであります。この生活排水処理施設の概要について御説明をいただきたいと思うのであります。

この生活排水処理施設によって、排出する水質はどの程度浄化されることになりますか。また、三軒町排水路の現状からいたしますと、設置場所はどこになりますか。さらに、この生活排水処理施設を今後運営、維持管理していく、この維持管理費についてはどの程度になりますか。さらに、またいわゆる合流式の下水道ということになるかと思いますが、こうした施設の中では大雨が降ったときなどの浸水というような問題が出てくるわけでありますが、付近の住民にこの点について御迷惑をかけることになりはしないか、雨水排水についてはどのようになっていますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、同じく環境衛生費中、負担金補助及び交付金の中で、補助金として家庭用小型合併処理浄化槽設置事業補助金ということで1530万円が計上されておるわけであります。これまで議会の中で繰り返し私も主張してまいりましたこの小型合併処理浄化槽に対する補助の事業であります、いよいよ新年度から実施という運びになりました。現在の単独浄化槽の設置状況は9月議会での御答弁によりますと、年間421基、大体年間400台乃至500台の割合で単独浄化槽がふえているのが昨今の現況だろうかと思っております。

そこで、この補助事業については、年間30基ということで予算化がされているわけであります。私は、端的に、大変少ないのではないかなという感じを持つわけであります。しかしながら、初めての事業ということもあり、実際、何基申請が出てくるかというのはやってみなければわからないというのはそのとおりだろうと思っております。したがって、その根拠についてはここではお尋ねをいたしません。

お尋ねしたいことは、もし、実施後、この予算の30基を超える見込みが発生したとするならば、速やかに補正予算を組み、これに対処するという考えがあるのかどうか。私は、予算が年間30基分しかありませんから、来年にしてください、こういう態度はとるべきではないと思うのでありますが、この点についてどうお考えかお聞かせをいただきたいのであります。

次に、118号、19節の負担金補助及び交付金ということで、県道改良工事負担金に4946万5000円が支出されているわけであります。県道の改良工事にあたり市に負担金を負担させる県のあり方もどうしたものかと思うわけですが、この工事内容について御説明をいただきたいと思っております。

次に、県道館山長尾線、豊房の大戸から神余方面に行く県道のことでありますが、豊房地区の中学生が二中に、自転車通学のために利用している県道であります。昨今、この県道は採石を積んだダンプの通行量が多くなっております。歩道や車道の区別がされておらず、自転車通学上危険な箇所となっております。6月の議会でも県土木に改良の申し入れをしていくという市の御答弁がございましたが、新年度の県道改良工事

にはこれらの改良工事が含まれておりますか。ないとすれば、今後、どのようにお考えになりますのか、お答えをいただきたいと思います。

次に、同じく118号、15節、3億4200万、道路改良・舗装工事請負費として計上がされております。この説明資料の16号によりますと、道路の新設改良等、各路線について細かく説明がされております。この説明資料の最初にございます市道2109号線について改良工事を行うとしているわけではありますが、この道路は那古小学校から白岩弁天の前を通り、国道バイパスの下をトンネルで抜ける道路でございますが、那古小学校、幼稚園の通学、通園路としてその整備が期待されるものであります。この3月30日には国道バイパスも那古からさらに富浦まで一部供用区間が延長されると伺っております。この市道2109号の改良もいよいよ急がれると思うのでありますが、この改良工事の内容と工事時期の見通しはどのようになっているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、121号、15節に工事請負費5000万円、北条海岸排水路改修工事請負費として計上がされております。この説明資料の19号によりますと、北条海岸排水路改修事業として5623万円とありますが、数字が違うのは物件調査委託あるいは地上物件補償費を含んでおるからとのことと解釈をして質問を進めますが、もし間違っていたら御訂正をお願いいたします。

安房西高校から線路沿いに北に向かって市道1092号がございしますが、この道路側溝は旧国鉄がつくったもののようではありますが、流末がなく年中污水がたまっております。そこで、お尋ねいたしますのは、この北条海岸排水路の集水区域はどこまでになっているのか、こうした市道1092号の排水等につきましても流末として今後利用が期待できるものであるのかどうか、この点についての御説明をいただきたいと思います。

次に、この排水路の流末は、汐入川に放流することのようですが、ここは大変土地が低い、満潮時には排水管の流末が水没をしてしまい、水が流れないということになりはしないかという問題であります。特に、台風の接近で気圧が下がる、高潮になる、そういう事態の場合にむしろ

逆流しかねないなどという心配があるわけではありますが、この点についてどのようになっておりますのか、その心配がないのかどうか御説明をいただきたいと思います。

次に、155頁、体育施設費・需用費の中で燃料費ということで、暖房用燃料費に262万4000円、あるいは光熱水費ということで水道使用料に300万円、これに関連をいたしまして温水プールの問題についてお尋ねをいたします。

市営の温水プールで、今、子供たちの間でミズイボがはやっております。プールの水は定期的に入れ替えたりしなければならないなど、その水質を、保健上、一定の水準を保つということが大変大事かと思うのですが、こうしたプールの水の入れ替えについての基準があると思うのですが、それはどのようになっておるのか。市はそうした基準に沿ってやっておるのかどうかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、温水プールと老人福祉センターのおふろについて、ボイラーを共有しているように伺っておりますが、このボイラーはボイラーマンが休むとたくことができません。このため温水プールや老人福祉センターのおふろが困る。ボイラーマンの方も自分が休むとボイラーがたけないわけですから、住民に迷惑をかけるということで大変にせつない思いをしているかと思えます。ボイラーマンの方が休暇をとりましても、市民へのサービスが低下をしないような対策を当然とる必要があると思えます。こうした点についてどのように対策をお考えになっておられますのか、お聞かせをいただきたいと思うのであります。

次に、191頁、国民健康保険税であります。この予算説明資料の38頁、国民健康保険特別会計積算資料として資料が出されているわけですが、この資料を読みますと、1世帯平均調定見込み額は15万959円、対前年度の決算見込みに比しまして6.60%アップということになっております。この数字をどう読むのかということでございますが、今年度は税率の改正は据え置かれたという経緯がございます、この6.60%という数字は新年度にあたりまして税率の改正はしない、そういう中で十分対処していけるという、こういう数字というふうに読むべきなのか、あるいは税率の改正、すなわち税率のアップ、こういう

ものが当然のこととしてそこに含まれているものなのか、この辺の判断をお聞かせをいただきたいと思いますのであります。

次に、お隣の鴨川市におきましては、2月の25日に広報鴨川ということで――あすこは月に3回ほど広報が発行されているようでありますが、この2月の25日号の中で、63年度の国保税は据え置きです、値上げはしません、こういうふうに市の態度を言い切っております。もしも財源が不足する場合は、市の一般財源からの助成を考えております、だから、御安心くださいという趣旨だろうかと思いますが、大変明確に市の態度を広報を通じて市民に公表しております。これは鴨川市におきます市長の国保に対する姿勢そのものだと思うのでありますが、市長はこの館山市の国保税についてどのように値上げ問題につきまして所信をお持ちでありますか。先日来の御答弁によりますと、今後の推移をみなければどうもわからぬというような、6月の本算定まで待たなければわからぬというような御答弁に終始をしておられたように思うのでありますが、こういうふうに近隣の鴨川市では明白に態度表明をなさっております。

さらに、また先日、鋸南町の議会の答弁の中でも、我が党の議員の質問に対して、議会答弁として保険税は据え置くということが出されております。半澤市長におかれましても、この際、市民に対し、この国保税の問題については据え置くんだ、そのために財源措置も講ずるんだ、こうした明白な態度を表明すべきだと思いますので、御所信をお聞かせいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして、再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

歳入の第1点は、半島振興法による減税措置についての御質問でございますが、昭和62年度では3社の適用があり、通常税率での税額は3421万230円、軽減税率での税額は342万1010円、差し引き3078万9220円の軽減を行ったわけでございますが、昭和63年度予算では同じく3社で通常税率での税額は3327万8000円、軽減税率での税額は665万8000円、差し引き2662万円の軽減額

を見込んでございます。

これが地域振興にいかに関与しているかという御質問でございますが、本来、この軽減措置は企業の誘致や地域産業の積極的な投資を促して地域振興を図るという趣旨でございますので、それぞれ各企業が積極的な経済活動を行っているものと、そういう意味で地域振興に関与しているものと考えております。

次に、雑入の問題で、予防接種事業についての御質問でございますが、予防接種事業は、伝染病を予防する積極的な対策として、昭和23年の法制定以来、実施しております。御質問の内訳は、日本脳炎2650人、インフルエンザ1万2480人、風疹230人をそれぞれ予定し、実費徴収金を計上したものでございます。

実費徴収の根拠といたしましては、予防接種法及び同法施行令の規定により、本人またはその保護者から、薬品購入費、材料費及び雇い上げ医師等に支払う経費の一部として徴収しているものでございます。

次に、歳出、保育所費、臨時職員についての御質問でございますが、昭和63年度は、福祉事務所へ配置されております保母1名を保育所へ配置替えすることにより、保母定数は充足される見込みでございますが、当然、年度中途からの入所者もあるわけでございますので、それには臨時職員で対応していこうということでございます。

昭和62年度の状況からしますと、昭和63年度もまた保母数の不足は必至のことと考えられますが、乳幼児の総数では減少しておりますので、当面現体制で進み、今後の状況の推移を見まして増員を考えたいと思っております。

次に、環境衛生費のうち、生活排水処理施設と合併浄化槽設置の補助についての御質問でございます。

まず、生活排水処理施設の事業内容でございますが、整備規模といたしまして流域面積32.71 km^2 、計画処理人口3010人、1日処理水量1200 m^3 を接触ばっ気方式により三軒町排水路最下流地点で取水し、排水路に隣接して設置する原水ポンプますに流入させ、延長762mをポンプ圧送にて湊地先、東京貨物健康保険組合館山寮脇の処理施設で原水BOD100PPMを20PPM以下に処理いたします。

処理された放流水は、延長 204 m をポンプ圧送にて八幡都市下水路下流へ放流する計画でございます。

維持管理費についてでございますが、電気料、薬剤費等で月額 100 万円前後を予定しております。

また、降雨時には、倒伏ゲートを自動操作により流水の支障とならないよう考慮いたしております。

次に、家庭用小型合併処理浄化槽設置補助につきましては、63 年度 30 基を予定しておりますが、設置希望者が 30 基を超えた場合には、補正予算で対処いたします。

次に、県道改良負担金についてでございますが、その内容は、橋梁架換整備事業として滝川にかかる新橋橋梁架換工事の負担金及び排水整備事業として和田丸山館山線ほか 2 線、5 カ所の側溝整備、局部改良事業として富津館山線北条地内の拡幅工事、県単道路改良事業として館山大貫千倉線の南条地内の拡幅のための測量委託等の事業費 1 億 5190 万円に対する負担金でございます。

御指摘の館山長尾線青柳地内の道路改良の見込みとの御質問でございますが、交通安全対策としての側溝整備を終え、今後の道路改良は家屋が連檐しているため用地買収は不可能であり、現在のところ事業実施は考えていないと館山土木事務所から伺っております。

次に、市道 2109 号線についての御質問でございますが、本路線は那古小学校の通学路としても利用されており、道路拡幅について地元からも要望がなされているところでございます。63 年度において、道路改良工事として実施すべく路線測量は終了し、現在、用地測量を行っております。

道路の規模といたしましては、延長約 300 m、幅員 4 m を計画しており、舗装化につきましては、路盤の安定を待って、できるだけ早い時期に実施したいと考えております。

次に、北条海岸排水路改修事業についての御質問でございますが、駅西口地区土地区画整理事業施行区域及び周辺市街地の浸水地域解消のため、62 年度から計画的に排水路を整備していこうとするものでございますが、その集水区域の概略といたしましては、東は内房線の線路、西

は市道船形館山港線沿いの約一宅地東側、南は汐入川河岸、北は静海荘前の市道1090号線沿い約一宅地南側で囲まれた区域で、面積16.5畝でございます。

この集水区域の雨水等进行处理するため、市道1091号線にボックスカルバートを埋設していく計画でございますが、計画排水路の放流口と汐入川の水位との関係につきましては、同区域の地盤が低く、ほぼ平坦であること、道路面の高さ、汐入川の現在の河床高、潮位、排水路の勾配等を総合的に調査検討し、放流口の管底高を最近5カ年の平均潮位よりもやや高く設計して対処しております。

体育施設費につきましては、教育長より御答弁を申し上げます。

次に、国保会計でございますが、昭和63年度の国保税につきましては、1人当たり対前年度決算見込み比108.41%の調定増を見込んでおりますが、過日、日下議員の行政一般通告質問でお答えしましたとおり、今後の医療費の動向、税収入、市税の伸びや国庫支出金等不確定要素が多く、多少の変動が考えられますので、6月の本算定時に検討してまいります。

以上、答弁を終わります。

(教育長福原 修君登壇)

◎教育長(福原 修君) お答えいたします。

体育施設費の温水プールについての御質問でございますが、冬の期間も水泳が楽しめる施設として利用していただくために、遊泳用プールの水質基準に従いまして、濁度、残留塩素、細菌群等の水質はもちろん、安全面には十分細心の注意を払い運営をいたしております。

また、ボイラー技師の休暇によりますシャワー等の給湯不足につきましては、利用者の御理解を得ながら今後も運営してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎1.1番(神田守隆君) 固定資産税の関係ですと、3社で大体3000万、2600万ということで適用になっている。3社しかないということで大変少ない。また、本当に地元で長くこれまでやってきた会社がこうした適用をちゃんと受けているのかどうかということで、大変懸念

を持っていたんですけれども、この3社というのはどこになりますか。

予防接種の関係で、日本脳炎、インフルエンザ、風疹、こういう予防接種で実費徴収をしているんだという話でしたけれども、まさにことは3月になって風邪がはやりまして、インフルエンザというのいろいろな型があるから、どれがことはやるかということで、その予測が大変難しいんだそうですけれども……。最近、予防接種の接種率が非常に低下する傾向がある、いろんな問題があるかと思うんですが、やはりこうした流行性感冒というものの蔓延を予防するという、予防医療を充実していくということは大変大事なことだろうと思うんです。そうしたことが結果的には国保を含めた健康保険の財政負担を減らしていくことにつながるわけですから……。

こういう点で、予防接種の実費徴収金380万というような、こういうところにお金を惜しんじゃいけないんじゃないかと思うんです。どうも杓子定規に考えているんじゃないか、そういうことで実費徴収ができますという規定があるから取っているという御説明でしたけれども、やはりその広がりを考えていった場合に、社会防衛、大げさに言えばそういうことになるんでしょうけれども、そうした点から見ましても日本脳炎とか、インフルエンザ、あるいは風疹、こういうものというのはやはり必要なものとして費用は公費で行うという方向に進めないものかどうか、この辺について検討をなさいますかどうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、保育所の関係でありますけれども、子供の数は減っている中で保母さんの需要がふえた、新年度は福祉事務所にいる資格のある方を保育現場に戻していくんだということですから、それで対処していくということの御答弁でしたけれども、保育園の場合には年度途中でどんどん入ってくるというケースが多いわけで、補正の場合もそういう問題でしたから、今後もそういうことが十分予測されると思うんです。そういう事態に対しては増員を考えるということでありましたから、それはそれでよくわかりました。

通常、人手をふやすということに対して、市長さんは非常にこれまでも議会の答弁の中で懸念を表明されて、大変慎重な姿勢をとっておられ

たんですけれども、そもそも子供を預かるという仕事、これは絶対に機械にやらせるわけにはいきません。幾らOA化が進んでも子供を預かるという保育の現場の仕事をOA化することはできない。こういう職務の内容から見ましても、やはり保母さんの身分を臨時職員ということではなくて安定をさせるということが内容の濃い保育にしていく行政の責任だろうと思います。私ども市民の立場からしても、保母さんの身分の安定なくして内容の豊かな保育を期待するということは間違いになっちゃうと思いますから、そういう点ではぜひこの辺についての考慮をお願いをいたしたいと思います。

次に、環境衛生費の関係でございますけれども、おおむねわかりました。また、30基ということについても、今後増高の余地があれば補正予算で対処するということでありますから、安心をいたしました。

次に、県道の改良工事の問題についてであります。青柳付近の交通安全対策の問題について、用地買収で行き詰まっちゃって当面見込みがない、大変残念なことでありますけれども、二中の子供たちの通学路の点で、地図を見て検討いたしますと、どうもあの辺がネックになっているんです。これについては、もし事故が起きてから——ダンプに接触すると吹っ飛んじゃいますから、非常に危険が現にあるわけですから、どうしたものか。この県道を通らずとも通学路が確保できるのかどうか。その点で何らかの対策を検討する必要があるんじゃないかと思うんです。

当然、まず学校がいろいろと検討なさるんでしょうけれども、しかし、学校で通学路の安全対策というのは、現にある道路を前提としてやるということ以上には学校の力ではできませんから、そういう点では教育委員会の方でも道路の改良なり、この農道を通学路にできるんじゃないかとか、こういう点での配慮をすればできるんじゃないかとか、そうした検討をお願いしたいと思うんですが、この点についてどうですか。

それから、市道の2109号の件については、国道バイパスの供用開始という中で、当面工事が急がれておると思うんです。通学路として利用するには、現況では道路が一部狭いとか、がけが一部あるとかという点で、ちょっと危険な箇所があるものですから、そういう点での心配があるわけなんですけれども、先ほど舗装も含めて今後検討するという、路盤

が安定した時点で舗装のことも触れられましたけれども、とりあえず道路改良を急ぐ、一部狭いところについては拡幅等をしなればならぬと思うんですが、この時期については新年度予算の中で早い時期にという検討がいただけるのかどうか。1年間、4月から来年の3月までありますから、その間、子供たちが通学路として利用できる状態になるのかどうか、そういう点から工事の時期の見通し、どういうふうに考えておられるかお聞かせいただきたいと思うんです。

それから、北条海岸の排水路の問題で、集水区域の問題、おおむねわかりました。静海荘の前の通りから南の地域ということで、かなり広い、いわゆる西口の区画整理の区域にとどまらずに、その北側の地域まで広範な排水をここで受けるんだと理解するわけですが、そうすると、J Rの敷地内の雨水排水というのが、先ほど指摘しましたJ Rの線路沿い、西高から北側に行く道路、市道の1092号の側溝にJ R内部の線路からの排水が受けるような形になっていて、どうも流末がはっきりしないんです。幾ら調べてみてもなんだかよくわからぬということで、そのためにあの辺がいつも水びたしになるということがあるんです。今、お話ですと、そこの地域も集水区域になるということですから、大変ありがたいことだと思うんですが、そうすると、この市道1092の道路側溝の整備については今後検討されていくというような計画がございますか。

それと、排水路の流末の関係で——汐入川の潮位との関係ですね。過去5年間の平均潮位から測定して、いろいろ技術的な問題であろうと思うんですが、大体何年に一遍というような台風が来ますと、あすこらの排水は本当に流れなくなっちゃうんです。私は素人ですが、ポンプアップをするとか、そういうような地域もあるように伺っておるんです。そういうような必要はあすこの場合には技術的に見て必要ないんだ、こういうふうに理解をしていいのかどうか。

次に、体育施設の関係で、温水プールの件でありますけれども、水質基準等については基準に沿って十分管理をしておるんだ、しかし、ボイラーの件に関しては、利用者の理解をいただいて休んだときはしょうがないというお話で、これじゃどうかなと思うんです。確かにボイラーマンというのは資格のある方でないといけませんから、しかし、例えば2

人雇えれば万全ですからそういう問題はないと思うんですけれども、1人だけの職場というのはそこで働いている方は本当につらいんです。そういうことで大変せつないと思うんです。それこそ一定の契約を結んで臨時的にとか、休暇が保証できるような、ほかの方がそのときには代わりにやってもらえるような、そういう手だてなり、体制なりというものを考えなきゃいけないんじゃないか。ただ、利用者の御理解をいただくというだけではちょっと納得しかねますが、その点について、直ちにどうこうというふうに、今こういうふうにすればという明快な御答弁は難しいかと思うんですが、その辺についての検討をぜひいただきたいと思うんですが、いかがですか。

最後に、国保税についてですけれども、市長さんは不確定要素も大変多い——私もそのとおりだと思います。6月の本算定を見なければわからない——確かにそのとおりだと思います。しかし、それは市長さんの御答弁としては私はどうかな……。現に、先ほど引き合いに出しました鴨川の市長さんは——広報ですから、市の方針ということで、ある意味では市長の議会答弁より非常に明快な態度表明だというふうに思うわけです。実に重大な市民に対する公約をしたというふうに理解をするんです。市民が非常にこの問題で心配をしているということを、実態の中であえて市長が明快な市の態度表明をなさったということだろうと考えるんです。私、今それが半澤市長さんにできないのかということなんです。その辺どうお考えなのかということで質問をしたわけなんです、その辺いかがでしょうか。

○総務部長（飯野芳郎君） 第1点目の、不均一課税の対象企業はどこかというお尋ねでございますけれども、地元企業が2社、進出企業が1社でございます。

なお、企業名については、いろいろと税務上の問題もありますので、差し控えさせていただきますというふうに考えております。

63年度の対象につきましては、届け出が3月15日までになっているわけでございますけれども、3社以外に若干あるというふうに伺っております。

○民生部長（渡辺 弘君） まず、予防接種実費徴収につきましてはの受

益者負担について検討はしないのかという御質問でございますが、その前に神田議員からインフルエンザの接種のことにつきまして御発言がございましたので、市の状況をお話いたしますと、全国的に、また東京都下でも、それぞれ大幅な減少が認められるわけでございますけれども、館山市といたしましても一応12月をもって終了いたしました。61年度の接種者を見ますと、1万4742名でございまして、62年度は1万205名、したがって30.8%ほどの減少が見込まれました。これの理由といたしましては、神田議員の御発言の中にもございましたように、インフルエンザのワクチンはそれぞれ型によって違う、そのようなことからインフルエンザワクチン接種への不信感や疑問があるかと思えます。それと、また62年度から従来の強制方式で実施しておりましたものが、保護者の同意方式に改められた。そのようなことから接種離れが進んだものと考えております。

次に、受益者負担の検討はしないのかということでございますが、先ほど市長から御答弁がございましたように、法律的な根拠といたしましては、予防接種法、それを受けましての同法施行令で実費徴収金の徴収を可能としておるわけです。私たちが実費徴収金につきましての基本的な考え方といたしましては、やはり受益者負担の原則に基づくべきだ、その原則に基づいて徴収しておるわけでございます。

公的な経費を税でまかなうのか、あるいは受益者負担にするべきかの問題につきましては、どこまで受益者負担が可能かという問題であろうかと思えます。一般論的に申し上げれば、受益者が限定できない、言い換えれば受益者負担の不可能なものであり、また国及び地方公共団体の費用は受益者負担に求めない限り税に負担を求めることになるわけでございます。受益者負担が求められる根拠といたしましては、まず第1に負担の公平があらうかと思えますが、行政活動が特定の者に特定の利益を与える場合、言い換えれば特定の者に特定のサービスをする場合には、それに要した費用をその方に負担させる方が公平だとする受益者負担の基本的な考え方があるわけでございます。第2といたしましては、財政上の効果があらうかと思えます。受益者負担が財政支出の特定財源として税等の一般財源の負担を減じる効果を持っておるわけでございます。

その他、受益者負担についての考え方はいろいろあるかと思いますがけれども、主にこのような根拠から受益者負担の制度が採用されておりますし、また活用もされております。また、活用される必要性があるかと思うわけでございます。このような考え方に立ちまして実費負担をお願いする予防接種につきましては、対象者がすべてということではございません。希望する者、言い換えれば特定の方に対して実施するものでございますので、その実費につきましては今後も徴収することが適当であると考えますので、予防接種実費徴収金につきましては従来どおりお願いしてまいりたい、このように考えます。

以上でございます。

◎教育長（福原 修君） 二中の通学道路の問題でございますが、直ちに実情を調査いたしまして、二中の校長とその対策を研究いたしたい、このように思います。

それから、温水プールのボイラー技師の休暇の問題でございますが、あの技師には資格がございまして、1級という資格を持っていないとボイラーを燃すことできませんので、現在の実情を申し上げたわけでございます。

休暇をおとりになるときには、その前の日に温度を上げまして、そして休暇のときにはきょうは技師が休暇をとっておりますので、シャワー等はやや遅くなりますと冷たくなるかもしれません、こういうわけで、お詫びをかねまして、お許しいただいてプールを利用しておったわけでございますが、御指摘のとおり、そういう実情でありますと、休暇をとる技師の方も精神的な苦痛を伴うんじゃないかと考えますので、人事課等とも十分協議しながら——これは資格というものがございまして、右から左へというわけにいきませんので、そういうこと等人事課とも協議して対策を講じたいと思っております。

以上でございます。

◎経済部長（安西良一君） 市道2109号の改良の件でございましてけれども、現在、道路につきましては、地権者から用地の御寄附をいただいているわけでございます。また、全部がまとまっております。用地の確保ができ次第に、できるだけ早い時期に改良にあたりたいというふ

うに考えております。

次に、北条海岸排水路の区域の関係でございますが、お尋ねの安房西高の東側区域の市道1092号線の排水は今後どうなるのかという御質問でございましたが、西口の土地区画整理事業の進捗状況にあわせまして整備検討をしてまいりたいというふうに考えております。

それから、なお、この排水路につきましての、汐入川との関係といたしましょうか、水の関係はどうなるのかというお話でございますが、現在、3点を考えております。

第1点は、台風時等の排水能力がどうあるのかということに対しましては、5カ年確率で時間降雨量62mmというように、それに対応できるようにというようなことで設計をしてございます。それから、もう一点は、排水口の——一番はけ口でございますが、そこにフラップゲートと申しまして、水圧によりまして自動的に汐入川の方からも閉まるし——例えば、汐入川の方の水位が上がった場合は自動的に閉まりまして侵入を防ぐ、それから逆に北条海岸排水路の方に水がたまりますと、フラップゲートを押して汐入川の方に水が出るというような仕組みのものでございます。そういうものを設ける。それから、もう一点は、水路高のはけ口の高さの関係でございますが、現在ありますはけ口よりも約1mの高さにもってきてある。以上の3点をもってそれに対応するというところで、お尋ねのポンプアップの必要はないかということでございますが、現時点では考えておりません。

以上です。

◎市長（半澤良一君） 健康保険税の問題については、今までもたびたび神田議員の御質問にお答えをして、私の考え方を述べてきたところでございまして、私の考え方に変わりはありませんから、くどくなりますけれども、申し上げたいと思います。

国保制度というのは、医療保険制度であるわけございまして、保険制度というものは、本来、加入者の相互扶助であります。それを基本理念としているわけでございます。そういう意味で、国民健康保険法もやはり相互扶助という基本的な理念に立つものであると、私は考えているわけでございます。それと同時に、また会計法上からいえば、特別会計

でございますので、特別会計独立の原則を踏まえて運営しなきゃいけないんだというふうに考えているわけでございます。

特に、また国民健康保険については、被保険者がほかの保険と違って高齢者が多いということ、低所得者が多いということ、そういう構造的な問題を抱えているわけでございまして、またそれについて、その構造的な弱点といいますか、欠陥といいますか、そういうものを修正するために老人保健法ができたり、退職者医療制度というものができてきたわけで、ある程度の改善はできてきているわけではありますが、根本的にそうした構造的な欠陥が修正されているわけではないわけでございます。そういうところから、国保のあらゆる問題がそこから起こってくるわけでございまして、いわば日本の医療保険制度の欠陥が国保制度に集約された形だというふうに私は理解しておるわけでございます。

そういう意味で、これは館山市だけじゃなくて、全国の市町村がこの問題は非常に大きな問題でございます。全国市長会におきましては、再三この問題の改善を決議をいたしまして、当局に訴えてきたわけでございますが、去年の10月には医療保険一元化に関する提言を決議をいたしまして、今回の国保制度が改正されるにあたって、全国市長会としてその意見をまとめて、提言をして、それを実行してもらうように運動をしてきたところでございます。

一方、また、そうした制度の問題のほかに、現実には医療費の増高という問題があるわけでございまして、これが私にして言わしむれば、医療費の増高こそ国保の矛盾を一層激化させるゆえんである。この医療費の増高をいかに押さえるかという、そういう問題がまず別にあるわけでありまして、それからもう一つは国庫の負担率の引き下げという、この問題もあるわけでございます。

そうした諸矛盾を抱えて、今日の国保制度があるわけでございます。しかし、ある限度以上、どこまでいったら負担の限界であるかということは、再三また議会で御答弁申し上げたこともありますけれども、確定できませんが、確かに高いということは私も認めているわけでございます。そういう意味で、今回、国保の財政調整基金は全部はたいて、さらに一般会計から2000万を入れた、そういうことでございますが、一

般会計の繰り入れもやむを得ないというふうに現在の時点で考えましたから、こういう予算を編成いたしたわけでございますが、一般会計からの繰り入れも無制限に繰り入れるわけにはいかない、一つの原則を立てなければ歯止めがきかないじゃないか、国防費の1%枠じゃございませんけれども、そのときのつかみ金でまあこれくらいだというわけにはいかない、やはり健全な財政運営をしていく上では一つの原則がなければいけない、そういうことでこの間民生部長から御答弁申し上げましたような、考え方に立って2000万を入れたわけでございます。

そういう意味で、今後の保険税につきましては、先ほど御答弁申し上げましたように諸条件の推移を見まして決めたい、そういうふうに考えているところでございます。

○11番（神田守隆君） 固定資産税の問題について、先ほどの御答弁で極めて少ないわけで、こうした制度の趣旨をよく徹底したということ、当然やった上でのことだろうと思いますけれども、地元の地域振興につながるような意味でしたら評価ができるんですが、この固定資産の減税の内容で懸念を感じますのは、大きな企業でやることは人減らしなんです。機械でかえれば人減らしができますよ、機械にすればその分固定資産税がかかるけれども、この固定資産税おまけしてあげますよというんじゃない雇用がかえって減っちゃうわけですから、それを税金をまけるなんてとんでもない話で、そういう点ではこの中身がちょっと心配な気がするんです。合理化投資に対して、人員減らしに対して減税措置をしているようなことはないかどうか。確かにそういうものも減税の対象にはなるんです。その辺についての検討がとおりになりますか。あれば、内容を御説明いただきたいんですけれども、なければいい結構ですから、今後御検討いただきたいと思います。

それから、予防接種の関係なんです、先ほどの民生部長の答弁聞いてますと、これは受益者負担だからということを強調されますから、これはやはりただじゃないかと、結論だけはお金もらいますというのはつながらないんです。受益者負担の原則で受益者が特定できない——だって、風邪がうんとはやらないための予防接種、誰が受益者ですか。もちろん風邪をひかなくなればその人が受益者です、それにとどまらないで

しょう。そのためにみんな国民健康保険などから医療費を出さなければならぬんじゃないですか。そういうことを考えれば、まさにさっき市長さん言いました医療費の増高をどうおさえるか、国保の一番重要なテーマの一つだというふうに強調されましたけれども、それをやらなければしょうがないじゃないですか。

まさに、インフルエンザについては、非常に全国的にも問題になって減っているんです。当たるも八卦、当たらぬも八卦も確かにあるんです。インフルエンザの問題については、今年はA何型とか、何がはやるかということ大変難しいわけですから。しかしながら、強制じゃなくなって同意がなければできなくなったという条件の中で、そういう中でお金は取りますよということをやっているれば——できるだけ多くの人に受けてもらおうじゃないかという行政の姿勢、そういう中で結果的に医療費の増高を抑えていくという視点からも予防接種の問題は考えてほしいと思うんです。

先ほどの御答弁を聞いていると、何で取るのかなという、かえって受益者負担ということ言えば言うほど、これはいよいよもって無料にするべきだ、こういうふうに思うんですが、いかがですか。

それと、あとの御答弁については、大体わかりました。

市長さんの御答弁聞いていますと、国保の問題、大変難しい問題だということを百も承知で聞いているわけで、また百も承知で市長さんも御答弁なさっているんだろうと思いますけれども、一応ここではこれで質問は打ち切ります。

先ほどの点、御答弁をいただきまして……。

◎民生部長（渡辺 弘君） 私が、申し上げました予防接種に係る受益者とは、接種を受ける対象となる人という意味でございます。

以上でございます。

◎総務部長（飯野芳郎君） 設備投資と雇用の関係についてのお尋ねでございますけれども、うちの方としてはつぶさに分析した経緯はありません。

◎議長（飯田義男君） 以上で、11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前 11時40分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（飯田義男君） 午後の出席議員27名、休憩前に引き続き会議を開きます。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 御質問を申し上げます。

まず、最初に25頁、市民税について御質問をいたしたいと思います。非常に財政の厳しい中におきまして、今年度は個人市民税並びに法人市民税が非常に伸びを示しておりまして、非常に歓迎するところでございます。特に、個人市民税は去年の伸び率に対して3倍になっているわけでございますし、法人市民税につきましては去年の伸びに対しまして6倍の伸びということで1億491万円も伸びておりまして、この点につきましては非常に館山地域におきますところ所得、法人の利益というものが上がったということであろうかと思っておりますけれども、この上昇の理由、状況について説明をいただきたいと思っております。

それから、2番目には、固定資産税でございますけれども、固定資産税は前年対比にいたしまして81万円ですけれども減なわけでございます。私は、当初予想しておりましたところでは、市民税、法人税は伸びがにぶるんじゃないか、しかしながら土地高騰その他の問題が非常に社会的な問題になっておるので、館山市においても固定資産税というのはかなりの伸びを示すんじゃないかというふうに予想しておりました、非常に心配したんでございますけれども、逆に固定資産税というのが減になっておる。去年はそれでも当初予算において9000万円の伸びが予想されたんですけれども、ことしは横ばい、減ということでございますから、ここら辺がどういう状況であったのか御説明をいただきたいと思っております。

2番目の質問として、29頁、教育使用料でございます。この点につきましては教育の充実、特に公民館活動の活発化、さらにはスポーツの振興については鋭意努力しているということが施政方針の中でもって強

調されたわけでございますけれども、全般的に予算の伸びはあるわけですが、教育使用料だけが456万円の減になっておるわけでございます。その内容として公民館の使用料が予算からいって昨年の半額、婦人会館——これはいろいろ事情があるんでしょうけれども10分の1、勤労青少年ホームが去年の約半額に減っているわけでございます。このことは、こうした数字の上から見ていくと、公民館活動とか、青少年勤労ホームとか、婦人会館、こういう施設の利用が減っているとふうにししか見えなくても、活発化していく云々という施政方針と相反して、具体的な数字が去年からことしにかけて半分前後減っているということについてはどういうことなのか。いろいろ事情があると思うんですけれども、その事情について、ちょっと額が大き過ぎるものですから、御説明をわかりやすくお願いしたい。

それから、もう一つは、やはり教育使用料の中でもって、体育館、運動場、50mプールの使用料が前年対比でもって若干ではございますが減少している。非常にスポーツ振興、その他が強調されている中でもって毎年上がってきているんですけれども、今年は若干であるが減っているということは、かけ声と現実の間にかかなりのギャップがあるような感じがしてならないんですけれども、そこら辺はどういうことなのか教えていただきたいということでございます。

3番目に、50歳、13節委託料の中でもって市制施行50周年記念誌の企画・編集委託料があるわけでございますけれども、50周年記念につきましては60歳で委員会の謝礼とかその他があるわけでございまして、総額的には664万の予算が計上されているわけでございます。50周年記念事業ということでございますので、内容のあるものにしていただきたいという観点から、この内容がどういうものかについて3点ほど聞きたいわけでございます。

1つは、準備委員会をつくるということになっているわけですが、準備委員会の構成というものはどういう範囲のどういう人たちを考えているのかということ。

2番目には、委員会で協議する内容、対象はどういう範囲のものになるのか、どういうものになるのか。この委員会というのは非常に決定権

を持っておりまして、ここの委員会でもって頭腦的にこういうものをやりたい、ああいうものをやりたいということでまとめて、そこで出た結論というのはやっていく、こういうことになるのか。そこら辺ある程度の枠組みなり、そういうものがあると思うんですけれども、委員会で協議される、また委員会に付託しようという内容の事項、これがどういうものかわかりやすく教えていただきたい。

それと関連しまして、市の広報でもって、50周年記念に対してアイデアを募集しているわけでございます。50周年をどうしたらいいかということについて市民の声、要望を聞きますということでもって出ているわけでございますけれども、その中でもって、例えば茂原市は40周年記念でもって50億ぐらいかかったですか、5000人収容の大体育館を記念でつくったんですが、えらい意見が出たんですけれども、最終的には体育館ということでもってやった。けた外れのものでございますけれども、そういうようなものが出てきた場合にはたして対応できるのか。これは極端な場合ですよ。船橋なんかの場合には、50周年記念事業の中では児童遊園地をつくって、いろんな記念のものがありまして、私もあそこを見ましたけれども、50周年記念という一つの記念碑が立っておりまして、いろいろそういうものが大小あるわけでございます。金のかかること等の問題が無制限に出てきたときには大変だろうし、そういう面ではこのアイデア募集、どうしたらいいかというのは、どの範囲のものをおさえておるのかお伺いしたい。

それから、3番目には、そういっても来年のことでございますから、ある程度市としては50周年記念というのはこういうものをやりたいというのがあるんじゃないか。具体的にわかるのは、50年誌を編集するということで委託料が相当の額——大半以上が委託料でございますから、立案、編集の委託をするということですから、相当のものができるんじゃないか。館山市制の30周年かるときには記念事業はやらない、記念事業については館山市史を編集ということでやって、前の市長どうこうということではありませんけれども、前の市長は終始記念事業というものはやらないということを、我々が追及していった中で言うておりまして、しかしながら歴史に残るものですから、本ということで集約してい

くということで、特に大きなそういうイベント的なものはもたれなかったんですが、もつ、もたないは時の状況でございますし、最近リゾート云々ということで観光が非常に目玉になってきているわけですから、大きなイベント等含んで、そして観光とかそういうものと結びつけるということだったらいと思うんですけども、そういう意味でもってこういうイベントをやりたいとか、記念誌をつくりたいとか、もので残る——体育館なら体育館で10億、20億ぐらいの永久的に残るようなものをつくりたいとか、そういうようなものはある程度絞られてきているのかどうか。今の段階である程度絞られてきてないと、来年でございますから、そういった大きなものになるとなかなか着工ができないということでございまして、そこら辺については、50周年記念のいろんなイベント、どういうものが今考えられているのか。こうというものはなくても予算とか、規模的なもの、性質的なもの、そういうものがある程度あるんじゃないか。あるものを委員会に付託するのか。そういうものは全くなくて、そのものを委員会の中で討議してもらって出してきてもらう、こういうことなのか。

そこら辺の関係をせっかくでございますし、我々も50周年記念は盛大ということは言葉が悪いと思いますが、意義ある50周年の節目にしたいということではできるだけの協力はしていきたいし、また議員の一人としてもそういう面でもって少しでも役に立てばと思っているわけでございますので、50周年記念の考え方について教えていただきたいと思います。

それから、4番目に72頁、第3款民生費でございますけれども、この民生費の中に扶助費というのがあってございます。扶助費が説明資料の4頁に出ているわけでございますが、前年対比で5800万円の減になっているわけです。比率としては93.7%ということで減になっているわけでございます。福祉に力を入れていくという方向にあるわけございまして、この扶助費が減るということは、医療扶助費がかなり軽減されるということも説明に出てくるんですけども、数字的にちょっと5000万円ということ。

当然、私は5000万なり1億ぐらいふえるんじゃないかというよう

に想定していたのが逆に減ったわけでございますから、上げ下げ1億5000万ぐらいの誤差が私の見方との間に出ているものですから、それを埋めてもらうような答弁がいただければというように思います。

5番目に、調査費についてでございますけれども、110頁、商工業振興費の一番最後に企業立地基本計画策定委託料というのがあるわけでございます。昨年も企業の立地基本計画策定については委託をしたわけでございますが、昨年の実績の上に立ってことしも再度調査する必要があるということでもって500万円が計上されているわけでございます。そのような説明になっているわけでございますが、昨年の企業立地の基本計画の概要はどういうものが出てきているのか。

私は、昨年、単年度でもってある程度結論が出るものだと思っておったんですけれども、また去年の調査の結果、ことしも必要が出てきたのもって500万円の調査研究をして企業の立地、誘致に努める、こういう説明でございますから、それはどういう内容のものなのか。そして、本年度の必要性ということで説明されておりますけれども、本年度これをやる必要性はどういう内容でもって、どういうものかということについて御説明をいただきたいと思います。

それから、113頁、13節海洋性リゾートタウン事業業務委託料でございすけれども、これも600万円あるわけでございます。そこで、私は、言葉の理解が食い違っているのかどうかわかりませんが、施政方針その他の中でもって、また予算説明書の中の16頁には、海洋性リゾートタウン基本構想の調査に基づいて海洋性リゾートタウンの事業の業務調査の委託をしておる、リゾート研究会というものが大手の企業によって開かれて、そこでいろいろ研究をされておるということなんですけれども、海洋性リゾートタウン基本構想というものは大ざっぱに言ってどういうものができておるのか教えていただきたい。こういうことでございます。

できたら、企業立地と同じように委託しているところの昨年のリゾート法に基づいたところの企業誘致、適用を受けるために野村総合研究所に補正予算等も組んで委託したわけですから、それについて一つの方角ができてきておるのか、どういう概況か公開できるようなものがあ

ったら、一応去年との連携でございますから、去年の実績の上に立つて
ことしも予算を計上、委託するかということを決めるということが議会
の中にあるわけでございますから、全く去年も内容がわからないけれど
ももう一度やらしてくれということも、ちょっと議員の立場から言うと
むちゃな面がありまして、去年やった成果はどのぐらい出てきているら
しい、したがって、ことしはこういう形の中でもってかなり進むようだ、
こういうことがわからないかということについてお伺いをするわけでご
ざいます。

それから、121ページのやはり委託料でございますけれども、終わりの
方にJR館山駅橋上駅舎化等調査設計委託料ということでもって書いて
あるわけでございますけれども、項目が13節の5700万の予算中、
水門管理の委託料から委託料がたくさんあるものですから、どのくらい
の委託料でもってお願いするのか額を教えてくださいということ。

それから、昨日の質疑等で、特に山中議員の方からの質疑の中で、橋
上駅の問題については自由通路でもって当面对処していきたいというこ
とで強調されておるわけでございます。きのうの論議の中では、ショッ
ピングができるような橋上駅をすぐにとということについては、それは今、
考えてない。千葉みたいにショッピングセンターの中に入れるというよ
うなそういうものは全くありません、駅とショッピングということはお
りませんということで、はっきりした答弁があったわけで、むしろ今、
考えているのは自由通路だという、自由通路をどこにするかということ
についてやっている。将来的には、西口、東口ができた中でもって橋上
駅というものを固定していく、こういうことになろうということで、橋
上駅の構想というのは将来的にあるけれども、現状としては自由通路だ
ということでございます。

そうすると、この委託料の中でもはっきりとJR館山駅橋上駅舎調査
委託料ということでもって、そういう都市計画がはっきりしてない中で
もって、この橋上のものを組んでやっていかなきゃならない、場所もど
こに決まるのかわからない。駅前開発委員会の中でもまだ両方の都市計
画の状況によっては場所が北側になるのか南側になるのか、今のところ
になるのかというのも、そういうのもわからない段階でもって橋上駅舎

の調査委託というものを出していくということは、現実と予算の計上についてぴんとこないものがございまして、今の段階でこういうものを委託するというのはちょっと予算のむだ使いになるんじゃないか。

自由通路云々ということになってくれば、自由通路にしたって確定的なものはまだないわけですから、まずここに確定したということができて——場所ぐらいですよ、ここからここへいくんだ、東と西口ここを結ぶんだということができて、それについていろんな周囲の状況、商店街どうしていくんだ、こういうことが出てくるために専門的な調査を頼むということはいいいんですけれども、今の段階でこれが出てくるということとは——出てきたって、そんなものはたなぼたでもって、すぐ利用できるわけじゃないし、今、この予算のない中でもって委託料を計上するのはどうかと思うんですけれども、どういう御趣旨でもってこの委託料を計上されたのか御説明をいただきたい。内容的なものについてお願いしたい。

6番目に、114頁に逆戻りしますけれども、負担金の中で観光行事補助金が1025万円あるわけでございます。この内容としては、観光まつり、城まつり、フラワーフェスティバルの事業委託のような形で、観光協会に補助金を出して、これらの事業を推進してもらうということでございます。

さらに、薪能というものもこの中に含まれておるわけでございますが、私は、これらのイベントを見ているときに、薪能については割合に成功しているというか、いいと感じているんですけれども、しかしながら、ほかの観光まつり、城まつりというものについては、非常に観光協会の中でもって努力されておるけれども、やはり一つの決め手になるような行事には至っていないような感がするわけでございます。

特に、私はここで質問したいのは、そういう状況にある中で、民間からの協力金という形でもってこれらの事業に伴って相当な金を集めている。それが一つの限界に達してしまっているものですから、市の方の補助金も少ない、金集めをして観光まつり、城まつりやっているけれども、毎年、毎年寄附集めでもって、商店街や観光業者が集められて、一つの限界にきているという中で、何かそういったものが感じられるわけでご

ございます。今、これらについて何とかカンフル剤を打たないと、せっかくのそういった城まつり、観光まつり、花火大会というものも参ってしまうんじゃないか、そういうところにきているような感じがするわけでございますけれども、そうした面についてはどのようにお考えになっておるのか。

そして、やはり、この観光行事の補助金については、観光協会に任せっ放しではなくて、観光行政を一つの柱にしている中でございますから、もう少し市ぐるみの——市長、言われましたように、行政と民間が一体となって盛り上げるようにしていかないといけないんじゃないか。どちらかという、最近、民間の観光協会の役員の人たちはあっぶあっぶしながら、やっとうこういう行事をやっているということでもって、むしろ市の方からのそれに対するフォローの方が落ちている、ちょっと協力度合いが民間の方に強いような感じがするわけですが、こういうことではやはり今の民間業者ではちょっと息切れしてしまうんじゃないかという感じがするわけでございますけれども、この1025万円の補助というものが十分機能を果たしていない。果たしていないということになれば、上げるなり、別途方法を考えていくということが必要じゃないかと思うんですが、そこら辺はどのようにお考えになっておるのか、お伺いをしたいわけでございます。

それから、151号、市民センターの管理運営委託料が2727万円計上されまして、前年対比で見ますと1136万円の増になっておりまして、非常に大幅な値上がりになってきているわけでございます。そのほかにどんちょうに対する予算は別途に設けられておるわけでございますから、したがって、この増と、管理委託料というものはどの範囲のものが委託されておるのか、その内容についてお伺いをしたいわけでございます。

特に、一つは、あの中におきますところの机を直すとか、腰かけを1個、2個買うとか、私どももいつも館長に申し出ているんですけれども、大会議室の演壇もほしいということでやっているんですが、なかなか予算がないということで、いまだに実現されてなくて、下の大ホールの中から演壇のテーブルサイドの小さいものを持ち上げてきてやっている。

ここ7、8年、毎年毎年やっているという状況で、そういうようなものはこういった管理料の中でまかなわれているのかどうか。

福祉協議会の職員と市民センターの管理というのが重複しているところがあるわけですが、そういう面でもって人件費等の部分はどの程度委託料の中に含まれているのか。この点について少し詳しく教えていただきたいと思います。

それから、ページはちょっとわかりませんが、青少年相談員の海外派遣研修費というのが3名分、88万6000円ということでございますが、単純に割っていきますと29万幾らという端数が出るわけでございます。どういう基礎で計算されて支給されておるものか。

この点については、私も青少年相談員の第1回の海外派遣ということで、今から20年近く前に参加をしておったわけですが、当時は全額自己負担ということで、大変で、多少なりこういうものについては市費なり、県の援助というものしていただきたいということで、こういう制度ができてきて非常に結構なことでございまして、この派遣の研修費というものが個人負担に対して、また県の方の負担もかなり出ているわけですから、どのくらいのものをまかなっているのかについてお伺いしたいと思います。

同時に、この海外研修については、青少年相談員だけなんですけれども、例えば、施政方針の中にも出ておりますように、スポーツ少年団等においても13年間西ドイツの人を受け入れ、毎年指導者1名、さらには団員を2名乃至3名、延べにして約40人近くの者を送っているんですが、これについては全部自己負担、旅費だけでもって、ことしも1人行くわけですが25万円、研修費その他を加えるということで30万ぐらいは全額負担で——例えば、埼玉県等については100%、25万円の負担金だけは県と市町村が出すというところもあるわけですが、千葉県全体が遅れているんですが、館山市の場合は全額個人負担ということでございますので、そういう点。

さらには、バリンナムとの交流もライオンズが一手に引き受けているわけですが、館山市の代表ということで、姉妹都市の交流という中でライオンズが肩がわりしながら、高校生なり、海外交流—

一豆施設団という形で送っているわけですが、こういう人たちに対しては補助なりというものは行われぬのか。

やはり、半ば市を代表するような形——個人的な海外旅行じゃ困りますけれども、ベリンハムとの姉妹都市の交流の中の一環として派遣されている高校生とかというもの。日独のスポーツ少年団の交流という、半ば公式的な交流。西ドイツは大統領が歓迎会を開いてくれるというようなものでございますから、そういう市、県を代表していく者に対して、青少年相談員と同じような形は出せないのか。

そういう面からいって、青少年相談員のここに出ているものの基礎というんですか、どういう形で出されておるかお伺いしたいと思います。

その次に、154号、19節負担金・館山市体育協会補助金、それからスポーツ少年団育成補助金、館山市婦人スポーツクラブ補助金というのがそれぞれあるわけでございます。この内容につきましては、各種大会の派遣、それから交流、親睦と健全育成ということにおいてそれぞれ説明欄におきましては付記されておるわけでございます。体育協会はことしは15万円ほど上がったんですけれども、スポーツ少年団とか、婦人スポーツクラブ等の補助金というのは大体10年くらいあまり変わっていない。財政事情が切り詰まっているからむしろ補助金を切り下げていかなきゃいけないという中でもって、現状維持乃至は若干5万とか10万円上げるという中でもって今日推移しているわけでございます。

施政方針の中においては、指導者の育成、それから生涯スポーツを通じての体育の振興を図るべく努力している、そして、これらについてはスポーツ団体に補助金を交付することによって行っている、こういうことでございますけれども、具体的に施政方針の中に書いてあります体育団体を通じて行うところの生涯スポーツの振興策というものは、今までの補助金の中においてはまかなわれておらないだろうし、私はスポーツ少年団にも関係しておるわけでございますが、指導者の育成——館山の基本計画の中にも一つしか、指導者の育成というだけしかありません。しかしながら、指導者の育成に対するとおる予算的な措置というものも、基本計画が出ていながらそれ以降もこういったものの予算というものが現実的には体育団体に入っていないんじゃないか。

言葉では、施政方針の中で指導者の育成、生涯スポーツを通じて体育団体の補助金を通じて振興を図ると強調しているわけですから、文章的には立派ですけれども、受ける方の体育団体にしてみれば何もないということで、これなんだいということになっているんじゃないか。ここら辺の点を教えていただきたい。

もう一つは、すぐ上の、委託料として、小中学校体育振興委託料があるわけでございますけれども、これにつきましては、体力と運動能力の向上のための指導と、それから学校体育の充実、こういうようなことで出されているわけでございますけれども、これの交付の基準というんですか、どういう形でもって出されておるのか。学校によっては随分違うようですが、この方法でございます。

特に、私は、その中で小中体連の県の大会等について、かなりの自己負担をしながら参加しているということも聞いておりまして、私にも、今度は市議員になったんだから、「もう少し、県体に出るぐらいの旅費を市の方で出してもらおうようにお願いしてください」という声を、私の地元の学校だけじゃなくて、そちこちの学校に行きますと聞くわけでございます。こういった県大会の旅費というようなものが不十分じゃないか。

むしろ、小中学校の体育振興については学校教育の中で行われるべきものであって、運動能力の向上とか、体育の充実というものも必要でございますけれども、むしろ振興事業としては館山市を代表して県大会に出ていくとか、そういうものに対して義務教育ですから個人負担をなくして、自己負担のないように派遣費、旅費等を出すのが建前じゃないかと思うので、そういう面が明記されておりませんので、そこら辺が両方混合してて十分に使われておらないという感がするわけでございますけれども、この点についてどのようにお考えになっておるのかお伺いしたいわけです。

それから、逆に102頁に戻りまして、豊房の育成牧場業務管理委託料2515万円があるわけでございますけれども、これの収入といたしましては、収入の欄に1818万円あるわけでございます。この委託料と収入金との上げ下げが697万円、早くいえば赤字になっているわけ

です。委託費と委託した売り上げというんですか、委託料との関係が約700万。100頭預けてあるということですのでございますから、1頭当たりについて7万の補助をしているという状況でございますが、この成果はどのように出ているのか。

最近、農作物の自由化という問題があって、酪農というものが危機に瀕しているわけでございますけれども、そうした中でもって育成牧場そのものの管理委託が現況でいいのか悪いのか。委託先の畜協等でも非常に委託料が安くて精一杯だ、苦労しながらやっているということでもって、どちらかという重荷になっているというような面もあるやに聞いておるわけでございます。責任ある人ですけれども、非公式な話ですから、どこからどこまでとは言い切れませんが、そういう関係者からききますと、「畜協の方も大変なんだよ、委託料がこれ以上上げてもらえないし……」というようなものもありまして、非常に創意工夫しながら、何とかいい乳牛を出しておるようでございますが、そこら辺についてどういう状況なのか。館山市としては委託料2500万出しているわけございまして、実質的に収入があるといっても700万の補助を出しているわけでございますから、その成果がどうなのか。ちょっと御説明いただきたい。

次に、125頁、館山運動公園の整備事業についてお伺いします。19節の負担金補助及び交付金の中に館山運動公園整備事業負担金2億8152万円があるわけでございます。御説明によりますと、全国レベルの大会が可能な規模の体育館をつくるという説明でございますけれども、全国大会が可能というのは、どの程度可能なのか。当初の計画ですと、かなり小さいもので、全国大会等が開催されるにはなかなか困難だったものが、地元の要望によりまして今日のところまで非常に大きく拡大してもらったということでございますので、非常に結構なことだというふうに思うわけでございますけれども、そういう状況は実際にはどうだったのか。

新聞等によりますと、設計図、そういうものについて検討委員会を開いていろいろと検討し、要望も出したということが報道されておりましたけれども、こういうような検討委員会というのはどういう人たちによ

って設けられておるのか。わかりましたら、わかる範囲でもって教えていただきたい。

2 番目には、利用目的と対象をどこに置いているのかということです。全国大会を開けるようなことを主眼にした体育目的なのか、それとも市民スポーツを中心に行っているのか、それから、学校の部活の中で利用がしやすいようにしているのか、そういうような一つの目的があると思います。

市民センターの場合には、体育館でございますから、事業としては体育館としてやって、剣道の体育施設用ということで、剣道の大会ができる、同時に多目的に演劇、講演会ができるようにという形で、折衷したようなもので非常にいいということであったわけですが、今になってみるとどっちもどっちでもって、アブハチ取らずの感もあるわけでございます。スポーツも演劇も音楽もできるということで、そういうことを目標にしてあれが建って、当時私も市会議員で、何回も通告質問しながら実現したわけでございますけれども……。

今回は、そういった面の体育館の利用目的の対象というのはどこに置かれていくか。全国大会を開くというのが重点なのかどうかということ。医師会等においては、あそこは健康チェック機能のようなものを持てるようなトレーニングセンター、そういうものを充実してやってもらいたいというような要望もあったようでございますけれども、そういう要望なりがどの範囲入れられているのかお伺いしたい。

それから、3 番目には、私もスポーツ少年団の本部長でございますが、体協の三役の人とか体育指導員の委員長、婦人スポーツクラブの人等に伺いますと、どうも直接運動公園の建設なりについてはタッチしておらないし、どういう内容のものができるのかわからないということを聞くわけでございます。私もいろんな人から聞かれるわけですが、さっぱりあの体育館がどういう形でつくられていくのか、地元からの要望がどんどん出されているということでございますけれども、地元の体育団体というものが脇に置かれながらどっかで進んでいるようでございます。

私は、館山市のスポーツ団体というのは、市の予算書なり方針の中に

書いてありますように3団体しかないわけですから、体協と婦人スポーツクラブ、スポーツ少年団ですから、そして市が直接任命しているところの体育指導員というのがあるわけですから、ここら辺をやはり母体にして体育行政というものにかかわってもらわないと、それ以外のところでやっていくということになりますと、どういうことかということでもって、我々当事者としても面食らうわけでございまして、そこら辺がどうも市の運動公園建設事業との間にしっくりいってないような形で、私自身としても、また私の所属しているスポーツ少年団の中でもいろいろこうしてもらいたい、ああしてもらいたいという要望はたくさんあるんですけれども、どこへどう反映さしているんだか、考えつかないうちにどんどん進んでいっちゃって、予算が2億何千万、総工費8億、来年も同じく2億数千万の負担金がかかってくる。

10分の4の負担金が県単の事業にかかってくるという中でもって、我々も議員の端くれでございますから、その内容ぐらいはどうなのか。また、その内容については40%出すわけですから、こういうふうにしてももらいたいくらいの要望はかなり入れるんじゃないか。特に、県営といえども、あの土地は館山が無償でもって県に提供したわけですから、館山市はえらい負担して、県はどちらかというと、10分の6しか出さなくて全部やるというような状況でございますから、我々地元の要望というのはかなりくみ入れられていい状況にあるわけですが、体育関係者というものが割合疎外される中でもって、体育館というものが建設されていくということについては若干私は不満を持っているわけでございますけれども、そこら辺はどういう食い違いがあるのか御説明をいただきたい。

8番目には、147名、生涯教育講座講師等謝礼でございますけれども、10.5万円ということで非常に少ない講師謝礼で大変かと思えます。少年教室とか、成人教室、公民館講座、家庭教育学級の小中、幼稚園というようなものの講座の講師謝礼ということでございますけれども、私がいろいろ関係している団体では、1回の講師謝礼というのは大体20万ということでやっているんですが、なかなか20万じゃ来てくれない。テレビに出ているような有名な人、長島とか江川を頼むと大体1時間で

80万ということが報道されているわけですから、あのクラスを呼ぶと大体1時間80万クラスだそうでございますけれども、それをここだけの講座で105万でやるということですから大変でございます。労働団体では県の指定によりまして、1時間3万5000円ということをやっているんですが、なかなかいい講師がいなくて苦労しながら、いつも労働団体の方から3万5000円に1万5000円ぐらい足して5万円ぐらいでもって講師を頼んでいるのが実態なんですけれども……。

そういう点で、非常に苦労なされていると思うんですけれども、講師の延べ人員はどのくらい予定しているのか。館山市のこういう生涯教育の講座に対する講師の謝礼というのは、どのくらいの単価で計算されておるのか。時間当たりとか、1講座当たりとかというのがあると思うんですけれども……。

県の労働講座の場合には3万5000円なんですけど、労働金庫の場合には20万円ということで、商工会議所でやるということで、3万5000円でやってくれということで県の商工部に行ったら、「3万5000円で誰ができるんですか、うちの方でやれば30万か40万ぐらい出さなければ講師来ませんよ」ということで相手にされなかった。「その10倍出してください」ということを言われて、現実的にはあそこら辺でやるのはそのぐらいの講師を呼んでくるらしいんです。講師の相場というピンからキリまであるわけでございますけれども、金を出したからいいというわけじゃありませんで、ここら辺は実際にはどのぐらいの講師の予定をしているのか。その額によっては私の方もこういった公民館、家庭教育なんかについて優秀な先生を紹介してやって、講師陣の充実に協力したいというふうに思っているわけでございます。その点を教えていただきたい。

9番目に、189号、最後になりますけれども、国民健康保険会計でございます。これにつきましては、午前中神田議員が非常に詳しくやられましたので、おおむねの了承はいたしました。

私は、最後に市長が神田議員に答弁した4つの事項というのは、私の考えと全く同じでございますから、そのとおりやってもらいたいということでございます。

私は、常々、保険会計というのは、相互扶助の関係にあるんだから、その原則は守らなきゃならない。その原則に立って法律ができてるんだということでございますから、それが主張された。

2番目に、やはり特別会計であるということですから、特別会計として採算制をとらなきゃならないということをおかねがね主張しておりまして、市の方もある程度、堅持してきたわけでございます。しかしながら、今までもいろんな形で、繰入金という形で一般会計、さらには財政調整基金の中から繰り入れていくという形の中で、現実的には一般会計からの補てんという形の中でやってきているけれども、原則的には独立会計としてバランスをとってきたということ。

それから、やはり解決策としては全国一元化というような形の中でもって解決すべきだ、こういうような意見で、市長会でもそういう決議に積極的に参加して、私らが要望している方向で市長も努力しているそうでございますから、こういう点についてはそのとおりこれからもやっていただきたい。

4番目について、私はここで論議をしようということは、やはり医療会計の一番の問題は医療費の動向、これが問題でもって、これがかさむから高くなるんであって、これについては市長も鋭意医療費を少なくする方向でもって努力してきているということですから、この4点は私もこのとおりでもって、これを遂行していただきたい、こういうふうに思いますので、よろしく願いいたしたい。

そこでもって、私は、2点だけ質問をするわけでございます。先ほど神田議員の質問に対しまして、基金をたたいて、そしてなお不足するのでやむを得ないのもって一般会計からの繰り入れ2000万いたして、そして今言った企業会計の独立性、そして相互扶助といえどもその負担が重くならないように対処しました、その点についてはやむを得ないことでもって、ということでございまして、その心中はわかるわけでございます。

しかしながら、私は、一般会計から2000万円を繰り出したということについては大変な問題であろうというふうに思いまして、この点については背に腹はかえられないけれども、今まで館山市は一般会計から

ストレートに入れたのではないわけでございます。今回初めてなわけです。私は、さっき言った4つの原則の中からいってもやるべきじゃない。全く敗北的な措置と言わざるを得ない。何がなんでも、当初予算から組む。どうしてもだめだったら補正予算等で組む場合にはやむを得ない場合があるけれども、しかしながら、当初予算から一般会計を繰り入れていくということ、相互扶助の原則、さらには国民健康保険法の立場からいってこういうことですから……。

先日の日下議員の質問の中でもって、NHKの——市長も見ておられたようですけれども、札幌を中心にいたしまして、非常に国民健康保険が大変だということ。そして、厚生省の役人が最後に、「これはどうするんですか」、「いや、法の建前からいって相互扶助の関係ですから、一般会計から埋めあわしてどうということはできません。」、「現実的に赤字財政を出しているのは、70%で出していますから、30%は出してないところがあるんですから」、こういうことを言っておって、館山市も聞くとおるところによりますと、その30%に入っていたわけで、赤字出してなかったわけですから、そういう面では今までの半澤市政というものは大したものだというふうには思うわけでございますけれども、今回は完全に一般会計から、ギブアップしたということについて、私も市会議員の一人として残念に思うわけでございまして、この点は何とか考慮できないか。

医療費の一人当たりの額が、入院費においてもことは5万7308円、前年が5万2581円とかなり上がっているんです。入院費についても5万8015円、昨年だと5万2845円ということで、医療費がこんなに急速に上がってきってしまうということになりますれば、どうしたって追いついていってどうにもならないわけですが、この点はやはり神田議員も言っていたように、予防行政なり、スポーツの振興、体力づくりというようなものをきちんとしていけば、こういう病気の人はいないはずなんです、そういう面との因果関係というのが非常に強いんじゃないかというように思うわけでございます。

テレビでやった翌日に、列島2万キロとかで、和歌山県の海女の島が出ておりまして、あそこは90ぐらいの年寄りの人が会長でもって病気

したことない、うちは病気やらない、年寄りがふっとんじゃっているところがありまして、すばらしい長寿町だということで報道されております、こういうところだったら健康保険会計というのは黒字になると思ったわけでございます。

そういうような健康都市づくりということをやっていけば、今の会計でいきますと黒字が出て、国民健康保険ほくほくというような状態になるわけでございますから、そういう方向への努力というものが欠けているんじゃないか。ただ、医療費がかかるから追いかけて、税金は上げる、そして足らなければ一般会計からやっていく、こういうことでは余りにも政治性がなさ過ぎてしまうんじゃないか。市長は年期もはいつているし、非常な政治力もあるわけでございますから、ここら辺は政治をして……。

結論はたった一つなんです。病気しないようにすればいいんですから。しない人もいっぱいいるんですから。さっきも控室で「おれはあんまり病院に行かねえからよ」という人もいるわけでして、館山市も健康まつりの中でもって、1回も保険を使わなかったということで表彰された人100何人もあるわけでございますから、しない人はしないで、かかる人はかかるんですけれども、そこら辺はそういうような面で克服できないか。

したがいまして、私はここで質問したいのは、一般会計の繰り入れについては、先ほど聞いておりますけれども、何か撤回するような方向なり何かをしてもらわないと、私は、せっかく今まで13年間築いてきたものが最後に来てば一になっちゃう、終わりよければすべてよしということでございますけれども、終わりに来てだめになるような感がいたしまして、ここはひとつ歯を食いしばってやっていただけないものか、こういうふうに思うわけでございますけれども、その点を質問申し上げまして、御答弁によりまして再質問いたしたいと思ひます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

第1点は、市民税と固定資産税についての御質問でございます。

当初予算におきましては、前年度と比較して、個人市民税及び法人市

民税は伸びており、固定資産税については減となっておりますが、その理由につきましても、まず個人の市民税については、前年度当初予算対比では7766万7000円、4.3%の増となっておりますが、62年9月及び今議会補正計上後の現計予算19億3424万2000円と比較しますと、6233万3000円、3.2%の減となっております。これは税法改正による減税によるものが主なものでございます。

法人の市民税につきましても、前年度比1億491万3000円、23.3%の増となっておりますが、今議会で補正計上後の現計予算5億3956万3000円と比較しますと、1491万3000円、2.7%の増となり、これは自然増を見込んだものでございます。

次に、固定資産税につきましても、63年度18億1495万2000円と前年度18億1576万3000円と比較いたしますと、81万1000円、0.4%の減となっておりますが、その内容といたしましては、現年課税分で63年度17億7219万4000円、前年度17億6725万8000円、差し引き493万6000円、0.3%の増、滞納繰越分で63年度4275万8000円、前年度4850万5000円、差し引き574万7000円、11.8%の減となっております。その主な増減理由といたしましては、現年課税分は、土地については評価替え等、また家屋については新增築による増、滞納繰越分は、臨戸徴収等により滞納整理ができたための減でございます。

次に、教育使用料については教育長より御答弁申し上げます。

御質問の順序でなくてよろしいですか……。

それでは、歳出の部の御質問の第1点は、調査費についてでございますが、まずリゾート関連の調査費でございます。

企業立地基本計画策定業務委託料についての御質問でございますが、本年度調査の委託先といたしましては、株式会社野村総合研究所でございますが、調査を実施するにあたり、市内部に関係各課で構成するプロジェクトチームを推進組織としてコンサルタントとともに研究をしてまいりました。その経過につきましては、間もなく最終報告書が提出されることとなりますが、当市の産業開発の基本方向を策定し、土地利用の基本的な考え方、開発適地の選定、誘致対象企業の抽出等を実施したと

ところでございます。

63年度は、本年度調査で明らかになる開発適地の状況等を踏まえまして、海洋性リゾートタウンのまちづくりと整合性を図りながら、海洋バイオ産業、ソフトウェア産業等、当市の恵まれた自然環境等を活用した企業誘致の実現化方策について調査を実施するものでございます。

次に、海洋性リゾートタウン事業業務委託料についての御質問でございますが、62年度におきましては、リゾート法の重点整備地区の指定を受けるべく調査を進め、さらに法の動きに合わせて総合的な海洋性リゾートタウン基本構想を策定しているところでございます。

地域指定と調査の関係ということでございますが、御承知のとおり、リゾート地の形成は、リゾート法の地域指定を受けた後においても、長期的なまちづくりの観点から総合的な検討が必要であり、特に企業の開発誘導等は重要な課題であると考えております。そのようなことから、63年度におきましては、本年度の調査を生かし、具体的な海洋性リゾートタウン計画の促進を図ろうとするものでございまして、主な調査研究事項といたしましては、健康志向リゾート事業の需要調査とその方策、交通の改善方策、高質な空間形成の方策、リゾートイメージアップ方策、イベントの創出等の調査をしようとするものでございます。

次に、同じく調査費、橋上駅舎等についての御質問でございますが、JR館山駅舎につきましては、さきに一般通告質問の際にも申し上げましたが、基本的に館山駅周辺市街地整備計画の中に位置づけ、将来の橋上駅舎化を踏まえて、現在JRとの協議を行っているところでございます。

御案内のように駅西口土地区画整理事業は、予定では64年度に換地設計を行いたいと考えておりますが、換地設計を行う時点までには橋上駅または自由通路の西口地区への脚部の位置、占有面積等を確定しておく必要があるわけでございます。そのために、将来の橋上駅舎化を踏まえた上、当面自由通路を主体とした設計を行おうとするものでございます。

調査設計の内容といたしましては、地質調査、自由通路の位置の検討、駅の橋上化の検討、測量、概算工事費、鳥かん図の作成、自由通路の設

計等でございます。

また、委託の方法につきましては、今後ともＪＲとの協議を行いながら検討してまいりたいと存じます。

スポーツ団体に対する補助金につきましては、教育長から御答弁申し上げます。

次に、観光行事についての御質問にお答えをいたしますが、昭和６３年度の館山市観光行事補助金は、昭和６２年度に比較し約１０％の増となっております。

それぞれの観光行事につきましては、実行委員会を組織いたしまして、多数の市民が参加できるようにするとともに、内容につきましても毎年実行委員により創意工夫を凝らし、観光行事運営委員会で十分検討されております。今後も、伝統的な行事とし、市民の意識の高揚を図り、より効果的に運用していくように努めてまいりたいと考えております。

次に、海外研修についてでございますが、青少年相談員の国際的視野を広め、青少年健全育成の指導者として、また地域のリーダーとして貢献していただくため、渡航費用の一部といたしまして１人２８万円を補助し、これを超える費用につきましては参加者の負担をお願いしているところでございます。

次に、育成牧場についてでございますが、昭和５８年１０月１日、合理化及び省力化を図るため、専門農協である安房郡畜産農業協同組合に業務管理を委託し、その設置目的に応じて最も効率的に運用されているところでございます。この中で、委託料が毎年増加しているということでございますが、その増高分は人件費相当分でございます。

今後、牧場の運営につきましては、輸入の自由化などに伴う酪農家の厳しい現況を踏まえ、安房郡畜産農業協同組合と十分協議しながら、酪農の振興と運営の合理化、省力化を図ってまいり所存でございます。

次に、市民センターの管理運営委託につきましては、行政改革の一環として実施したものでございまして、館山市民センター管理運営委託契約書によりまして、１ 条例の定めるところにより、市長に代わってセンターを使用に附すること、２ センター施設の維持管理、３ センター設備の保守点検等の再委託業務に係る業者の選定及びその契約、４

センター及び施設使用料の徴収及び収納事務、この4つについて館山市社会福祉協議会に委託しております。

委託料の内訳は、職員2名分の人件費84万71000円、物件費1880万1000円でございます。物件費の主なものといたしましては、需用費1258万5000円、保守点検委託料584万円等でございますが、センターの施設及びその付属設備の新設、増設、移設、改築及び10万円を超える修繕に要する経費は委託料に含まれておりません。

次に、館山運動公園の体育館の建設についてでございますが、県立館山運動公園の体育館につきましては、63年度から2カ年で建設される予定になっており、市の負担分は公共事業分10分の2、県単独事業分10分の4の合わせて2億4000万円でございます。これは他の県立公園の地元負担割合と同じでございます。

体育館の基本計画、実施設計等は当然県で策定実施するものでございますが、規模的なものにつきましては、本体育館は安房地域で唯一の総合運動公園施設の中の一施設として、地域住民のスポーツ・レクリエーション活動、健康・体力づくりの場としてふさわしいものを、また全国レベルの大会等が開催されることにより、市民スポーツの活性化、さらには波及効果として地域振興へのインパクトが期待できるものと考え、県に要望したものでございます。したがって、使用対象につきましても、限定されるものではなく、あらゆる階層の方々、地域内外を問わず利用、活用されるよう希望しているものでございます。

体育館建設調査会につきましては、規模的なものを含め、利用する立場からどのような点に注意したらよいのか、機能的にどうあったらよいのか等、県への要望事項を把握するため、各種大会等で各地の体育館を数多く利用しているバスケットボール、バレーボール、卓球、体操、剣道等を専門とする経験豊富な中学校、高等学校、県教育庁体育課指導主事の先生方に委員をお願いし、設置したものでございます。

次に、市制50周年記念についての御質問でございますが、50周年と申しますと、大きな節目でございますので、市民とともに歴史を振り返り、未来を築く年と考えております。現在のところ、具体的には、市民が楽しめ、市外からの来訪客も呼べるようなイベントの実施、記念誌

の刊行、さらに意識高揚策といたしまして、シンボルカラーやマスコットキャラクターの公募等でございます。

このため、新年度早々に若い市民代表による委員会を設け、さきに募集いたしました市民のアイデア等も参考にしながら、イベントを中心にした企画案作成をお願いし、さらに各種団体長等を構成員とする委員会に御審議いただいて、計画を決定してまいりたいと考えております。

次に、国保繰入金と診療費についてでございますが、この件につきましては、辻田議員さんも、先ほどの神田議員の再質問に対するお答えで、市の立場を十分御理解をいただいたところと理解をいたしておりますが、その際にも申し上げましたように、いろいろな制度上の矛盾からどうしても国保税が高くなってしまふ、それが限界に近いのではないか——どこが限界かということは、論理的、科学的には申し上げられませんが、一般的な感覚として非常に高くなっている、そういうことでこの上昇を極力抑えたい、いままでいろいろ努力したところでございますが、いよいよ一般会計から出さざるを得ない、そういう状況になりましたので、一つの原則を立てながら——単なるつかみ金といったようなものでなくて、原則を立てながら負担の軽減を図りたい、そういうことで2000万円を計上したわけでございますので、御理解をいただきたいと思います。

次に、扶助費の減少内容についてでございますが、減少の大きな原因となっておりますのは、生活保護費中の医療扶助費でございますが、5156万2000円の減となっております。これは昭和62年度の決算見込みによりますと、当初予算に対し受給件数で240件、1件当たり医療費で7822円の減となり、その決算見込みによりまして昭和63年度予算計上したことによるものでございます。

ほかには、児童手当の減487万円がございしますが、これは児童手当の制度が昭和61年6月に改正されまして、2年間の調整期間をおき、昭和63年度から完全実施ということで、旧法による月額5000円の受給者に失権者が出たことによるものでございます。

最後の御質問、生涯教育講師謝礼については、教育長から御答弁申し上げます。

(教育長福原 修君登壇)

◎教育長(福原 修君) お答えいたします。

教育使用料、全体として456万5000円減ったじゃないか——これは幼稚園の園児数83人の減少に伴う幼稚園の使用料が419万2000円減少したために、主として起きたものでございます。

社会教育施設使用料、特に公民館あるいは青少年勤労ホーム等の使用料が減って予算が組んであるんじゃないかということですが、これは逆に言いますと、無料団体——社会教育的団体といいますか、青年団体とか婦人会、あるいはいろんなサークル、そういうような団体の活動がふえたということでございまして、有料のものが減ったということでございます。

それから、保健体育施設使用料が対前年比95.6%になっているわけですが、これにつきましてはここ数年来、市営50mプール、市民体育館等社会体育施設の市外利用者——市外の利用者というのは、市民よりもやや料金が高いということでございますが、利用者の減少等を勘案してこのように組んだものでございます。

それから、補助金、委託金について、スポーツ団体の御質問でありますが、館山市体育協会、館山市スポーツ少年団等への補助金、委託金につきましては、各種大会、研修会等の派遣費、運営費、強化費及び事務局費等でございます。

それから、小中学校体育連盟に対する委託金でございますけれども、これには体育振興費並びに御指摘の県総合体育大会の諸経費等を計上いたしまして委託をしておるわけでございます。

それから、最後の生涯教育講師謝礼について、その基準と予算の積算についての御質問でございますが謝礼金の基準でございますが、大学の教授、助教授、講師クラス等で約2万円から5万円でございます。社会教育経験者等で5000円から1万円、一般的な趣味、教養講座の講師で4000円、スポーツ教室講師で3000円、その他社会体育審判員等で1500円、なお著名人につきましては、その都度交渉の上、決めております。

次に、予算の積算でございますが、1講座4000円クラスで延べ4

31人、5000円クラスで37人、7000円クラスで36人、5万円クラスで3人、成人式の講演に著名人を講師として予定しておりますので、1人44万5000円——これは税込みでございますが、その他各種大会の審判等謝礼金を含めて積算したものでございます。

以上でございます。

◎21番（辻田 実君） 細かい論議につきましては、特別委員会が設置されますので、そういう点については省略をいたしたいと思っておりますけれども、主な点について幾つか再質問したいと思っておりますので、お願いいたします。

固定資産税の中でございますけれども、概要につきましてはわかったわけでございます。しかしながら、説明書の中を見ますと、固定資産税の中の積算基礎では、償却資産は当然減少しているわけでございますから、この減がある。しかしながら、私がここでもって聞きたいのは、土地課税標準額、これはことは前年と同額なんです。それから、家屋課税標準額も同額で積算されておるわけなんです。ですから、数字的に見てまいりますと、償却資産の減が81万円の減というふうに取れるわけなんですけれども、それには数字的な結果ですから、そういうことなんですけれども……。

そこには、私は土地については前年と同じですから上げ下げはないと思うんですが、買ったからどうのこうのということじゃなくて、土地は前年の分が9000万円も上がっているわけですから、したがつてこのところを、全然同じということはちょっと考えられないですけれども、来年か再来年、今度は評価替えあったわけですから、下がるということはないと思うんですけれども、大幅に再来年の予算でもってアップしていくのかどうなのか。実際のところこれが心配なんです。去年とことしと同じでしょう。積算の土地課税標準額ですよ。

それから、家屋の新築の標準額というのも同じなんですよ、62年度と。家屋なんかの場合には、新築の家屋もあるだろうし、老朽化したのもあるだろうし、ほぼ同じになるというのはちょっとあれなんですけれども、家屋の方も新築なり、そういうものもずいぶんあったんじゃないかと思いますが、今回の当初予算の中では計算に入れられなかったのか

どうなのか。

それから、土地については、私は特に心配するんですけれども、急に来年になったら上がったということになっても、課税されるときになったら上がったということで、私はこれを見ますとほとんど上がらないと思いますけれども、実際には補正でぐんと上がったなんていうことになりますと、目もあてられないという心配があるものですから、税は鬼よりこわいといいますから、少しわかりやすく教えていただきたい。

具体的には、固定資産税が上がるなど思うけれども、予算的には全く同じ。標準額が同じですから、土地がそんなに前後もしないわけですから、予算上のあれであって、実際には適用の問題で違ってくるということになると問題ですから、このところをちょっと教えていただきたい。

それから、もう一つは、50周年記念の中で、委員会の委員の謝礼というのは、報酬じゃなくて、非常勤職員じゃないから、謝礼ということだと思うんですが、委員については額が少ないんですけれども、傷害保険料がついているんです。委員の傷害保険料2万円。ちょっと聞いたことがないんですが、50周年記念は傷害保険をかけなきゃならないのか、傷害保険の2万円というのはどうしてかかってくるのか。委員傷害保険2万円、どういうことなのか。細かいわけですが、教えていただきたいというふうに思います。

それから、その次に、リゾート調査費ですけれども、施政方針の中では、「館山リゾート研究会を運営し、適正なリゾート産業の誘導を図りながら実現化を積極的に推進し、リゾート法の地域指定を目指して全力を傾注してまいります」と書いてあるわけです。館山リゾート研究会に対して補助金を出しているわけですから、野村総合研究所の中でもってリゾート研究会というのをもってやっているわけですから、リゾート法の地域指定を目指して全力を傾注するということでございます。単にリゾート法そのものじゃなくて、リゾート法制定された後の問題ということでございますが、現実的にはリゾート法は今年度内に申請するということでもって、県議会の冒頭、自民党議員の代表質問の中で発表されているわけですから、この調査委託が終わるところには指定されているわけですから、それについて、文章的には、リゾート法の

地域指定を目指して全力を尽くすと書いてあるわけですが、そこら辺のごろというのはどういうふうに解釈されるのか。こういう言葉の使い方についてどう解釈したらいいのかお伺いをしたいと思います。

それから、もう一つは、藤原の運動公園の問題ですけれども、施政方針の中でもって2億何1000万の負担をします、今後この建設に向かって内容、機能の充実を県に要請してまいります、こういうことが書いてあるわけですが、内容、機能の充実を県に要請していきますということで、これからまだ要請していくような要素があるのかどうか。

先ほどの答弁でございますと、何か学校の体育の先生方ということで、すけれども、その先生方も結構ですけれども、これらのものは社会体育の施設でございますから、館山市には体協もあり、スポーツ少年団もあり、婦人スポーツもあるし、体育指導員というようなちゃんとした専門家がいます。学校教育においては立派かも知れませんが、社会教育に対しましてはこうした社会教育団体の指導者の方が先輩でもあり、はるかに優れているわけございまして、社会体育施設について学校関係の人だけでもって云々ということについては、ちょっと片寄り過ぎているのではないかと。

このように思うわけございまして、それらの関係について、そういうことであるならば社会スポーツ団体の代表等によっての話し合いの中で内容、機能の充実について、要望できるものがあればしていきたいというふうに思うわけですが、今の段階で、こういうふうに書いてありますけれども、どういうふうに解釈していいのかお伺いしたい。

それから、もう一つは、体育団体に対する補助等の関係でございますけれども、施政方針では非常に立派に書いてあるわけでございます。スポーツ少年団、自分の方を言うわけじゃございませんけれども、ほかの方の体育協会にしても、婦人スポーツクラブでも同じだと思えるんですけれども、スポーツ少年団の場合には前年と同じであるわけでございます。しかしながら、具体的にスポーツの内容に理解して協力いただいておりますならば——御案内のようにスポーツ少年団の場合には、ことしは20周年記念の特別補助金というのが20万円あったわけです。これはなくな

ったとしても、日本体育協会から県を通じてモデル地区の補助金が別途30万円、これはモデルでもって3年間ということですから、一応打ち切られるわけでございまして、モデル事業の中では約2000人規模の大運動会を開いて、大半をその予算に使ったわけでございますが、現実的にこの予算がなくなってしまう。そうすると、運動会の経費はどうするんだ、2000人規模の館山市唯一の市民ぐるみの運動会でありながら、その予算の捻出がないということで非常に困っているわけでございます。こういうところの対応をしてもらわないと、現実的には委託事業はマイナスになってしまいます。団体を通じてスポーツの振興を図る、指導者の育成を図るということは、言葉だけあっても内容的には出てこないと思うんですけれども、こうした点についてはどのように対応してもらうのか、以上の点について御答弁をお願いいたします。

◎総務部長（飯野芳郎君） 第1点目の、固定資産税のお尋ねでございまして、土地につきましては、昨年度と比較いたしまして、課税標準額が5億8000万ぐらいふえているわけでございます。これは3年に1回の土地の評価替えが今年度行われるわけでございまして、さきの千葉県の固定資産評価審議会を終えまして、館山市では2.8%の増になるという通知をいただいているわけでございまして、これに基づきまして来年度評価替えが行われるということで、若干、課税標準額が5億8000万伸びているわけでございます。

次に、家屋につきましては、去年と比較いたしますと、13億ぐらいの課税標準額が伸びているわけでございますけれども、これにつきましては家屋の新築があることによりまして課税標準額が伸びているわけでございます。

◎市長公室長（錦織 茂君） 市制50周年記念の傷害保険料の関係でございまして、6月中に中間報告を出していただきたいというようなことで、4月から6月の短期間に10回近い会議をお願いをするためと、また皆さんお忙しい中でございますので、夕方から夜間にかけてお願いをするために、特に交通傷害保険に入っていて万全を期したい、このように考えております。

◎経済部長（安西良一君） 先ほどの関係でございまして、すで

にリゾート法の指定地域を受けるべく手続が済んでいるのではないかと
いうようなお話でございます。まことにそのとおりでございまして、本
年度内に県は国の方に進達をしたいというような考え方を持っております。

ただ、進達されますと、それで終わりだということではございません
で、御承知のように6省庁の関係者によりまして連絡協議会が設置され
ておるわけでございます。そこにおきましていろいろ審査等が行われま
して、今の予想でございますと、いいということになりますと承認がま
いります。それに基づきまして承認をされた地域では基本構想に取りか
かっていくというような運びになるかと思ひます。そうしたことで、こ
れらに関連して事務が進められていくということではございませぬ。

それから、館山運動公園の関係でございませぬが、内容、機能等の充実、
これからもそういうことで県に何らか働きかけはするのかなというよう
なことでございませぬけれども、何回か御説明申し上げておりますが、現
在の段階では一応詳細設計もほぼでき上がってきた、今、一部修正ぐら
いではないかと思ひます。したがひまして、そう大きな機能の変化とい
うようなことはこれからは望めないんじゃないかというふうに思ひます。
そして、63年度乃至64年度の2カ年にかけてまして体育館が設置され
るというような運びになっております。

以上でございませぬ。

◎教育長（福原 修君） 御質問の御趣旨がよく取り得なかつたんです
けれども、このように解釈してよろしいかどうか……。

補助金がふえないじゃないか、もっとふやしたらどうかというような
御意見じゃないかとお聞きしたんで、そのようにお答えさしていただき
ます。

私は、実は補助金につきましてはこのように考えておりまして、これ
はあくまでも補助である、スポーツ少年団とか、体育協会、婦人スポー
ツクラブ等、このような団体で、あくまでも自主的な活動をなさってお
る団体である。したがひまして、そこには各会長さんあり、役員あり、
その団体を構成している所属員あり、その方々の熱意と意欲によって活
動が行われているものである、そういうようなことにつきましては極め

て敬意を表し、またそういう団体を大いに側面から援助し、応援をしない
きゃならない、こう考えております。

したがいまして、そのような団体を中心になってこちらが運営するん
ではなくて、私たちはあくまでも側面から援助する役割である。であり
ますから、スポーツ少年団の昨年のように、「20周年のこういう行事
をやるんだから、ぜひ補助金をふやしてもらいたい」、こういうような
話があれば、それを検討し、そしてその必要が十分——補助金を少しで
もふやして応援することが適当であると判断された場合に、補助金をふ
やしておるわけでごさいます。あくまでもその団体の活動意欲、活動
状況を受けまして、補助金等を考えていくべきものじゃないかと考えて
おりまして、この考えが適当でありますかどうか、また御叱正いただい
ければありがたい、こう考えております。

以上でございます。

◎21番(辻田 実君) 1番目ですけれども、この数字はこれで間違
いはありませんか。資料の中の7ページにあるわけでごさいますけれども、
ここに固定資産税の課税標準等という項目あります。ここには、土地が
477億7600万円、家屋が590億6600万円、償却資産が25
0億とあるわけです。この数字で税率は1.4%、徴収率が96%とい
うことでごさいますけれども、昨年の資料によりますと、土地の課税標
準額が471億9471万4000円、家屋が577億5192万90
00円、償却資産が265億4578万6000円、税率が1.4%と
いうことでもって、徴収率が96%、したがって、予算額が17億67
25万円という数字が出てきて、償却資産は大幅に減少しているわけ
ですけれども、土地、家屋については微増ということなんですが、した
がって、調定額では81万の差が、要するに償却資産のマイナスとあとプ
ラスマイナスで出てくる、ほぼ同じぐらいじゃないかということなんで
す。

現実に、こうなってくると課税標準額がこれと同じ、当初予算ですけ
れども、税金というのは土地でもってどうこうということないわけ
ですから、これらの基礎については、固定資産は。家屋の場合には新しくな
ってくるけれども、それは次の年度にいくわけですから。大体決まって

課税されると思うんですけれども。したがって、これからいくと税金というものは課税標準額がほとんど変わらないわけですから税金も上がらないと思うんです。この数字はどういうふうに見られるのかということです。数字がまっているかどうかということだけで結構です。教えていただきたい。私が言うのはそういうことでございますから、したがって去年とほぼ同じ額だから税金が云々ということで、これでいいのかということをお心配しているということでございます。

それから、2番目に、教育長の見解は、そういう見解もあろうかと思うわけでございますけれども、私はそういう考え方ではない立場に立つわけございまして、一つは、社会人というのはそれぞれ勤労して所得を得て、それに応じたところの税金を納めているわけです。税金によっていろいろなその恩恵を受ける中において、やはりスポーツを受ける権利というものがあるわけでございます。教育を受ける権利、そういう中でもって学校教育とは違った、市民として納税した中でもって当然健康を保つために健康教育、スポーツ活動というものは一つの権利として出てきている。

施政方針の中には、スポーツの振興を図っていくということになっている。したがって、今、館山市の場合にスポーツの振興の補助金を抜かした中になってくると、指導者の育成とか、体育の振興をするということとは出ているけれども、具体的にはそういう予算はどうなのか。ないじゃないか。館山市のスポーツ振興予算なり、行政というのはどういふことなのか。それは施政方針にも出ているように団体を通じてやっていく。団体の中にもない、一面については社会人であるからある面の娯楽的なものは自分でまかなわなきゃならないけれども、その面については十分理解できるが、しかしながら市の方でスポーツ行政、指導者の育成に対してどれだけやっているか、これは社会教育のそういった点というのは、義務教育なり学校教育と同じように生涯教育という中においては同じものがあるわけでございます。権利、義務、負担割合というものがあまして、そういう点については私は予算がないという形の中でもって建前の自主団体だからやればいい、それじゃ市の体育行政はなんだということになるわけございまして、館山市の中において体育行政は遅れて

おるんじゃないか。県下の中においても学務体育課というのは館山だけで、あとそのほかは社会体育課というのはほとんど独立している。社会教育課の中に入っているのが6市ある。特別そういうものをもっていても非常に体育行政、スポーツ行政、健康づくりを柱にしているところでもって少ないんじゃないか。

そういう点において、現状の中においてはせめて市が言っているように団体を通じて指導者の育成、体育の振興を図るというんだから、そのように団体に対して補助金を出してもらわないと、言っていることとやっていることというのは矛盾するんじゃないか。この点を指摘しているわけでございまして、体協なりスポーツ少年団については自主的な活動は自分でまかなう、それをもってしまった中でもって、市として今指導者の育成をしろというのは、基本計画の一つです。指導者の育成に対しての予算なり配置というものはどういう形でもって行われておるのか。他の市町村との比較から見ていってそこら辺について明らかにしてもらいたい。

こういうところの見解の違いがあって、私はそういう点について館山市は何といってもスポーツというものは、实际的に館山市の今までの歴史的な状況、今日ある状況の中でもって、リゾート法とからんでこれから進んでいくという中においてスポーツ活動というのは非常に大事だということに思っているわけでございまして、そういう面において質問しているわけでございまして、そういう面の体育振興費について団体以外についてはどういう形でもってまかなわれていくのかお答えをいただきたいというふうに思います。

◎総務部長（飯野芳郎君） 土地と家屋の課税標準額のお尋ねでございますけれども、これは63年1月1日現在に所在しております土地及び家屋について課税標準額を算定しているわけでございまして、この項に掲げられている数字で間違いはありません。

◎教育長（福原 修君） 誤解のないように申し上げますけれども、館山市スポーツ少年団には181万の補助金も出ております。館山市体育協会には487万5000円出ております。館山市婦人スポーツクラブには46万円の補助金が出ております。ですから、私は、何も全然応援

をしないと言っているんじゃないんでございまして、そういうような自主的な団体の活動に対しまして積極的に大いに応援しましょう、そういうことを申し上げているんでございまして、全然何もやらないということをお願いしているわけではございません。

でありますから、私が申し上げた趣旨というものは、この181万円の補助金の中で、なお足りない、こういう活動をして足りないんだ、こういうふうにおっしゃるならば、またいろいろと意見を申し上げていただければ、その内容をまた検討さしていただいて、ふやすとか、あるいは適當ではないんじゃないか、適當であるとか、そういうものを私は考えている、そういうことを申し上げているわけです。

それから、市はどういうような行事をやっているんだといいますと、大きな行事は若潮マラソン大会——これは体育協会に委託しておりますけれども、御承知のとおり行っておりますし、歩こう走ろう大会、そのほか軽スポーツ教室といいまして、高齢者の方々が非常におやりになっておりますスポーツの講座を開いてやっておりますし、あるいは公民館等におきましてはエアロビクスとかダンスとか、最近のスポーツを取り入れまして、できるだけ他の市に遅れないように努力いたしております。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 以上で、21番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で、通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第1号乃至議案第7号昭和63年度各会計予算につきましては、10人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました予算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第5条第1項の規定により、

1 番議員	脇田 安保君	3 番議員	田沢 勝信君
5 番議員	岩村 勝弘君	8 番議員	鈴木 勝美君
13 番議員	山中金治郎君	15 番議員	横溝 功君
16 番議員	石井 昌治君	18 番議員	日下 君敏君
26 番議員	近藤 好雄君	27 番議員	林 豊君

以上、10人を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

ただいま選任されました予算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

会議日程の変更

◎議長（飯田義男君） この際、会議日程についてお諮りいたします。

明12日の会議日程は、本日に引き続き昭和63年度各会計予算の審議となっておりますが、本日特別委員会に付託されましたので、明12日は休会といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、明12日の会議日程は変更され、休会と決しました。

延 会 午後2時47分

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明3月12日から21日まで委員会での議案審査のため休会、次会は3月22日午前10時開会といたします。その議事は、議案第1号乃至議案第25号等に係る各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案に対する討論通告の締め切りは、3月22日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第1号乃至議案第7号
- 1 予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任
- 1 会議日程の変更

